

# 患者調査

## 東京都集計結果報告

平成29年10月現在



東京都福祉保健局



# ま え が き

この報告書は、厚生労働省が平成29年10月に実施した患者調査をもとに、東京都の受療状況を把握するために集計したものです。

患者調査は、全国の医療施設から層化無作為抽出した病院及び診療所を調査日に利用した全ての患者について、傷病名、受療の状況、入院期間、退院の事由、診療費等支払方法などを調査し、患者の実態を明らかにすることを目的としています。

この報告書が、福祉保健施策を推進するための基礎資料として、広く活用されれば幸いです。

終わりに、この報告書を作成するに当たり、御協力いただいた関係者の皆様に、厚く御礼を申し上げます。

令和元年11月

東京都福祉保健局



# 目 次

	頁
I 調査の概要	1
II 結果の概要	
1 都民の推計患者数	7
2 都内施設の推計患者数	11
3 都民の在宅医療の状況	16
4 都民の受療率	18
5 流入－流出患者の受療割合	21
6 流入－流出の推計患者数	22
7 二次医療圏内の病院の受療割合	24
8 都民患者の入院期間	25
9 退院患者の平均在院日数・在院期間	25
III 統計表	
年次推移	
第1表 都民の推計患者数の年次推移、入院－外来・施設の種別	31
第2表 都民の受療率（人口10万対）の年次推移、入院－外来・施設の種別	31
第3表 都内施設の推計患者数の年次推移、入院－外来・施設の種別	31
第4表 都民の推計患者数及び受療率の年次推移、入院－外来・性・年齢階級別	33
第5表 都民の推計患者数及び受療率の年次推移、入院－外来・傷病大分類別	35
第6表 都内施設の推計患者数の年次推移、入院－外来・性・年齢階級別	37
都民の推計患者数	
第7表 都民の推計患者数・構成割合、診療費等支払方法・施設の種別・入院－外来別	39
第8表 都民の推計患者数・構成割合、受療の種別・施設の種別	41
第9表 都民の推計患者数、入院－外来・紹介の状況・病院（病床規模）－一般診療所別	43
第10表 都民の推計患者数、入院－外来・都内施設－都外施設・性・年齢階級別	45
第11表 都民の推計患者数、施設の種別・入院－外来・年齢階級・傷病大分類別	47
第12表 都民の推計患者数・構成割合、施設の種別・入院－外来・都内施設－都外施設・傷病大分類別	71
第13表 都民の推計患者数（65歳以上）・構成割合、施設の種別・入院－外来・都内施設－都外施設・傷病大分類別	79
第14表 都民の推計患者数、施設の種別・入院－外来・紹介の状況・傷病大分類別	87
第15表 都民の推計患者数、入院－外来・来院時の状況・病院－一般診療所・傷病大分類別	93
第16表 都民の歯科診療所の推計患者数、年齢階級・性・歯科分類別	99

第17表	都民の推計入院患者数、病院—一般診療所・入院期間・年齢階級・性別	101
第18表	都民の推計入院患者数、病院—一般診療所・入院期間・傷病大分類別	107
第19表	都民の推計入院患者数、入院の状況・入院期間・病床の種類別	113

#### 都民の推計退院患者数

第20表	都民の推計退院患者数、病院—一般診療所・手術の有無・退院事由・傷病大分類別	115
第21表	都民の推計退院患者数、病院—一般診療所・手術の有無・退院事由・年齢階級・性別	121
第22表	都民の推計退院患者数、病院—一般診療所・退院後の行き先・傷病大分類別	127
第23表	都民の推計退院患者数、病院—一般診療所・退院後の行き先・年齢階級・性別	133
第24表	都民の推計退院患者数、手術の有無・在院期間・傷病大分類別	139
第25表	都民の推計退院患者数、病院—一般診療所・在院期間・年齢階級・性別	151

#### 都内施設の推計患者数

第26表	都内施設の推計患者数・構成割合、診療費等支払方法・施設の種類の入院—外来別	163
第27表	都内施設の推計患者数・構成割合、受療の種別・施設の種類の別	165
第28表	都内施設の推計患者数、入院—外来・紹介の状況・病院（病床規模）—一般診療所	167
第29表	都内施設の推計患者数、入院—外来・都民—都民外・性・年齢階級別	169
第30表	都内施設の推計患者数、施設の種類の別・入院—外来・年齢階級・傷病大分類別	171
第31表	都内施設の推計患者数・構成割合、施設の種類の別・入院—外来・都民—都民外・傷病大分類別	195
第32表	都内施設の推計患者数、施設の種類の別・入院—外来・紹介の状況・傷病大分類別	203
第33表	都内施設の推計患者数、入院—外来・来院時の状況・病院—一般診療所・傷病大分類別	209
第34表	都内の歯科診療所の推計患者数、年齢階級・性・歯科分類別	215
第35表	都内施設の推計入院患者数、病院—一般診療所・入院期間・年齢階級・性別	217
第36表	都内施設の推計入院患者数、病院—一般診療所・入院期間・傷病大分類別	223
第37表	都内施設の推計入院患者数、入院の状況・入院期間・病床の種類別	229

#### 都内施設の推計退院患者数

第38表	都内施設の推計退院患者数、病院—一般診療所・手術の有無・退院事由・傷病大分類別	231
第39表	都内施設の推計退院患者数、病院—一般診療所・手術の有無・退院事由・年齢階級・性別	237

第40表	都内施設の推計退院患者数、病院—一般診療所・退院後の行き先・ 傷病大分類別	243
第41表	都内施設の推計退院患者数、病院—一般診療所・退院後の行き先・ 年齢階級・性別	249
第42表	都内施設の推計退院患者数、手術の有無・在院期間・傷病大分類別	255
第43表	都内施設の推計退院患者数、病院—一般診療所・在院期間・年齢階級・ 性別	267

#### 都民の受療率

第44表	都民の受療率（人口10万対）、入院—外来・都内施設—都外施設・性・ 年齢階級別	279
第45表	都民の受療率（人口10万対）、施設の種類・入院—外来・年齢階級・ 傷病大分類別	281

#### 退院患者平均在院日数

第46表	都民の退院患者平均在院日数、病院—一般診療所・年齢階級・性・ 傷病大分類別	305
第47表	都内施設の退院患者平均在院日数、病院—一般診療所・年齢階級・性・ 傷病大分類別	323

#### 医療圏別病院の推計

第48表	病院の推計入院患者数、病床の種類（精神—結核—その他）・ 患者住所地（都内医療圏—都外）・施設所在地（都内医療圏—都外）別	341
------	--	-----

#### 都内施設の総患者数

第49表	都内施設の総患者数、年齢階級・性・傷病大分類別	349
------	-------------------------	-----

#### 都民の総患者数

第50表	都民の総患者数、年齢階級・性・傷病大分類別	355
------	-----------------------	-----

### IV 参 考

#### 1 全国の受療状況

第1表	全国の推計患者数及び受療率、施設の種類・受療の種類別	364
第2表	全国の推計患者数の年次推移、入院—外来・施設の種類の別	364
第3表	全国の推計患者数の年次推移、入院—外来・性・年齢階級別	365
第4表	全国の受療率（人口10万対）の年次推移、入院—外来・性・年齢階級別	367
第5—1表	全国の入院受療率（人口10万対）、年齢階級・傷病大分類別	369
第5—2表	全国の外来受療率（人口10万対）、年齢階級・傷病大分類別	371
第6表	全国の受療率（人口10万対）の年次推移、入院—外来・傷病大分類別	373
第7表	全国の受療率（人口10万対）、総数—65歳以上・入院—外来・都道府県別	375
第8表	全国の再来患者の平均診療間隔、施設の種類・傷病大分類別	376
第9表	都道府県別にみた推計流入・流出患者数の割合	377

2	用語の解説・調査票	378
---	-----------	-----

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

この調査は、病院及び診療所（以下「医療施設」という。）を利用する患者について、その属性、入院・来院時の状況及び傷病名等の実態を明らかにし、併せて地域別患者数を推計することにより、医療行政の基礎資料を得ることを目的とする。

## 2 沿革

「患者調査」は、医師の診断した傷病名に基づく傷病調査であり、昭和28年から実施されている厚生労働省所管の調査である。

東京都では昭和52年に、昭和45、50及び52年に実施された患者調査について東京都分の集計解析を行い、「昭和52年都民傷病調査（患者調査都分集計）報告」として公表した。

継続して都民の受療動向を把握することが衛生行政施策の上でも重要であるため、昭和55年から毎年都分集計報告を発行してきたが、昭和59年の患者調査から調査周期が3年ごととされたため、都分集計報告も昭和60年から3年ごとの発行となっている。

また、昭和59年の患者調査から、都道府県別推計が可能となるよう調査客体数が増加されるとともに、患者の住所地が把握できるよう調査事項の改正が行われた。このため、昭和60年の都分集計報告から、都民の他府県での受療状況も集計解析できるようになった。

なお、昭和60年版から表題を「患者調査東京都集計結果報告」と改めた。

## 3 調査の対象及び客体

### (1) 調査の対象

都内で調査対象となった医療施設は、以下のとおり

病 院	入院：449 施設、外来：149 施設
一般診療所	165 施設
歯科診療所	33 施設 ※歯科診療所は、外来のみ調査

### (2) 調査の客体

医療施設を利用する患者を対象として、地域別推計が可能となるよう、厚生労働省が層化無作為抽出した医療施設における患者を客体とした。

<参考：全国の標本数>

病 院	入院：6,427 施設（抽出率 7.7/10）、外来：3,391 施設（抽出率 4.0/10）
一般診療所	5,887 施設（抽出率 6.2/100）
歯科診療所	1,280 施設（抽出率 1.9/100） ※歯科診療所は、外来のみ調査

## 4 調査の期日

病院については、平成29年10月17日（火）～19日（木）の3日間のうち病院ごとに指定した1日とし、診療所については、平成29年10月17日（火）、18日（水）、20日（金）の3日間のうち診療所ごとに指定した1日とした。

また、退院患者については、平成29年9月1日～30日までの1か月間とした。



## 5 調査事項

性別、出生年月日、患者の住所、入院年月日<sup>(※1)</sup>、退院年月日<sup>(※2)</sup>、主傷病名、副傷病名、診療費等支払方法、病床の種別<sup>(※1)</sup>、紹介の状況<sup>(※3)</sup>、退院後の行き先<sup>(※2)</sup>等である。

※1 入院患者及び退院患者に対する調査事項

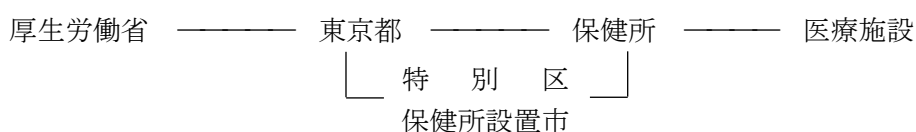
※2 退院患者に対する調査事項

※3 入院患者及び外来患者に対する調査事項

## 6 調査の方法

医療施設の管理者が記入する方式によった。

## 7 調査の系統



## 8 結果の集計

厚生労働省から患者調査東京都分のデータの提供を受け、施設の所在地又は患者の住所地が東京都にあるものを集計の対象として、東京都福祉保健局において行った。

## 9 傷病分類

この調査における傷病は、世界保健機関（WHO）の「疾病及び関連保健問題の国際統計分類」（ICD）」に基づいて定められた「疾病、傷害及び死因の統計分類（ICD-10（2013年版）準拠）」を適用して分類している。

## 10 利用上の注意

- (1) この調査における患者数とは、調査日に医療施設で受療した患者数を推計したものである。

したがって、1年間の受療状況を推計したものではなく、また、その傷病を有する全ての患者数を推計したものでもない。さらに、この調査はいわゆる1日調査であるため、調査日の天候等の影響を受けやすく、年次比較の際は注意が必要である。

- (2) 掲載数値で、「都民」とあるのは、都民の受療状況を把握したものであり、都外の医療施設で受療した都民を含む。

また、「都内施設」とあるのは、都内の医療施設での受療状況を把握したものであり、都民以外の受療患者を含む。

- (3) 受療率の算出に用いた年齢階級別人口は、「東京都の人口（推計）平成29年10月1日現在」（東京都総務局）を基礎に東京都福祉保健局で推計した。

厚生労働省の患者調査報告書では、「人口推計（平成29年10月1日現在）」（総務省統計局）の総人口を用いているが、都の集計で使用する年齢区分（0歳、1～4歳）の数値がないため、東京都で推計した数値を用いて算出している。このため、都と国とでは、数値が異なることがある。

(4) 表章記号の規約

計数のない場合	—
統計項目のありえない場合	・
数値微小の場合	0 又は 0.0
計数不明又は計数を表章することが不適当な場合	…

(5) 掲載の数値は、単位未満を四捨五入しているため、内訳の合計が総数に合わない場合もある。

(6) 受療率及び構成割合は、各表の端数処理前の集計数値により計算し、単位未満を四捨五入している。

## 傷病分類表

傷病大分類	基本分類コード（第10回修正ICD）
<b>I 感染症及び寄生虫症</b> 腸管感染症 結核 皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患 真菌症 その他の感染症及び寄生虫症	<b>A00-B99</b> A00-A09 A15-A19 B00-B09 B35-B49 A00-B99の残り
<b>II 新生物&lt;腫瘍&gt;</b> (悪性新生物<腫瘍>) 胃の悪性新生物<腫瘍> 結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍> 気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍> その他の悪性新生物<腫瘍> 良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>	<b>C00-D48</b> (C00-C97) C16 C18-C20 C33-C34 C00-C15,C17,C21-C32,C37-C97 D00-D48
<b>III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害</b> 貧血 その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	<b>D50-D89</b> D50-D64 D65-D89
<b>IV 内分泌、栄養及び代謝疾患</b> 甲状腺障害 糖尿病 脂質異常症 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	<b>E00-E90</b> E00-E07 E10-E14 E78 E15-E77,E79-E90
<b>V 精神及び行動の障害</b> 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 気分[感情]障害(躁うつ病を含む) 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害 その他の精神及び行動の障害	<b>F00-F99</b> F20-F29 F30-F39 F40-F48 F00-F19,F50-F99
<b>VI 神経系の疾患</b>	<b>G00-G99</b>
<b>VII 眼及び付属器の疾患</b> 白内障 その他の眼及び付属器の疾患	<b>H00-H59</b> H25-H26 H00-H22,H27-H59
<b>VIII 耳及び乳様突起の疾患</b> 外耳疾患 中耳炎 その他の中耳及び乳様突起の疾患 内耳疾患 その他の耳疾患	<b>H60-H95</b> H60-H62 H65-H67 H68-H75 H80-H83 H90-H95
<b>IX 循環器系の疾患</b> 高血圧性疾患 (心疾患(高血圧性のものを除く)) 虚血性心疾患 その他の心疾患 (脳血管疾患) 脳梗塞 その他の脳血管疾患 その他の循環器系の疾患	<b>I00-I99</b> I10-I15 (I01-I02.0,I05-I09,I20-I25,I27,I30-I52) I20-I25 I01-I02.0,I05-I09,I27,I30-I52 (I60-I69) I63,I69.3 I60-I62,I64-I68,I69.0-I69.2,I69.4-I69.8 I00,I02.9,I26,I28,I70-I99

傷病大分類		基本分類コード（第10回修正ICD）
<b>X</b>	<b>呼吸器系の疾患</b> 急性上気道感染症 肺炎 急性気管支炎及び急性細気管支炎 気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患 喘息 その他の呼吸器系の疾患	<b>J00-J99</b> J00-J06 J12-J18 J20-J21 J40-J44 J45-J46 J00-J99の残り
<b>X I</b>	<b>消化器系の疾患</b> う蝕 歯肉炎及び歯周疾患 その他の歯及び歯の支持組織の障害 胃潰瘍及び十二指腸潰瘍 胃炎及び十二指腸炎 肝疾患 その他の消化器系の疾患	<b>K00-K93</b> K02 K05 K00-K01,K03-K04,K06-K08 K25-K27 K29 K70-K77 K00-K93の残り
<b>X II</b>	<b>皮膚及び皮下組織の疾患</b>	<b>L00-L99</b>
<b>X III</b>	<b>筋骨格系及び結合組織の疾患</b> 炎症性多発性関節障害 脊柱障害 骨の密度及び構造の障害 その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	<b>M00-M99</b> M05-M14 M40-M54 M80-M85 M00-M99の残り
<b>X IV</b>	<b>腎尿路生殖器系の疾患</b> 糸球体疾患、腎尿細管間質性疾患及び腎不全 乳房及び女性生殖器の疾患 その他の腎尿路生殖器系の疾患	<b>N00-N99</b> N00-N19 N60-N98,N99.2-N99.3 N00-N99の残り
<b>X V</b>	<b>妊娠、分娩及び産じょく</b> 流産 妊娠高血圧症候群 単胎自然分娩 その他の妊娠、分娩及び産じょく	<b>O00-O99</b> O00-O08 O10-O16 O80 O20-O75,O81-O99
<b>X VI</b>	<b>周産期に発生した病態</b>	<b>P00-P96</b>
<b>X VII</b>	<b>先天奇形、変形及び染色体異常</b>	<b>Q00-Q99</b>
<b>X VIII</b>	<b>症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの</b>	<b>R00-R99</b>
<b>X IX</b>	<b>損傷、中毒及びその他の外因の影響</b> 骨折  その他の損傷、中毒及びその他の外因の影響	<b>S00-T98</b> S02,S12,S22,S32,S42,S52,S62,S72,S82, S92,T02,T08,T10,T12,T14.2 S00-T98の残り
<b>X X I</b>	<b>健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用</b> 正常妊娠・産じょくの管理 歯の補てつ その他の保健サービス	<b>Z00-Z99</b> Z30-Z39 Z46.3 Z00-Z99の残り

注： 傷病大分類については、平成29年から「疾病、傷害及び死因の統計分類（ICD-10（2013年版）準拠）」を適用しており、「脂質異常症」と「その他の内分泌、栄養及び代謝疾患」を分けて表章している。

## 別表 2

## 受療率算出に使用した東京都の人口

- (1) 総数は、東京都総務局統計部公表の「東京都の人口（推計）」（平成29年10月1日現在）による。
- (2) 年齢階級別の人口は、「東京都の人口（推計）」を基礎に東京都福祉保健局総務部総務課で推計した。
- なお、推計値のため、個々の数字の合計は必ずしも総数とは一致しない。

年 齢 階 級	平成29年10月1日現在		
	総 数	男	女
総 数	13,742,906	6,769,931	6,972,975
0 歳	111,323	56,972	54,357
1 ～ 4 歳	453,136	231,531	221,609
5 ～ 9 歳	539,453	276,357	263,079
10 ～ 14 歳	517,498	264,681	252,806
15 ～ 19 歳	550,857	280,627	270,211
20 ～ 24 歳	719,749	360,171	359,580
25 ～ 29 歳	869,300	439,692	429,628
30 ～ 34 歳	973,976	498,133	475,825
35 ～ 39 歳	1,033,614	529,990	503,580
40 ～ 44 歳	1,155,270	590,245	564,938
45 ～ 49 歳	1,165,412	594,966	570,327
50 ～ 54 歳	972,298	503,790	468,419
55 ～ 59 歳	785,500	404,603	380,844
60 ～ 64 歳	699,323	353,453	345,844
65 ～ 69 歳	869,827	427,487	442,352
70 ～ 74 歳	726,732	337,283	389,522
75 ～ 79 歳	632,006	274,963	357,157
80 ～ 84 歳	498,454	199,712	298,845
85 歳 以上	469,176	145,276	324,050
不 詳	1	0	1
( 再 掲 )			
65 歳 以上	3,196,195	1,384,722	1,811,927
70 歳 以上	2,326,368	957,235	1,369,575
75 歳 以上	1,599,636	619,952	980,053

## II 結果の概要

### 1 都民の推計患者数

調査日に医療施設で受療した都民の推計患者数は、「入院」102.2千人、「外来」755.6千人である。

#### (1) 施設の種類の性別・年齢階級別推計患者数

「入院」102.2千人について施設の種類の性別にみると、「病院」100.7千人(入院患者の98.5%)、「一般診療所」1.6千人(同1.5%)となっている。全国と比較すると、都民の方が病院利用者の割合が高い。性別にみると、「男」46.6千人(同45.5%)、「女」55.7千人(同54.5%)、年齢階級別にみると、「65歳以上」72.5千人(同70.9%)、「75歳以上」53.0千人(同51.8%)となっている。

「外来」755.6千人について施設の種類の性別にみると、「病院」151.9千人(外来患者の20.1%)、「一般診療所」441.7千人(同58.5%)、「歯科診療所」162.0千人(同21.4%)となっている。性別にみると、「男」313.7千人(同41.5%)、「女」441.9千人(同58.5%)、年齢階級別にみると、「65歳以上」344.6千人(同45.6%)、「75歳以上」204.1千人(同27.0%)となっている。(表1、図1)

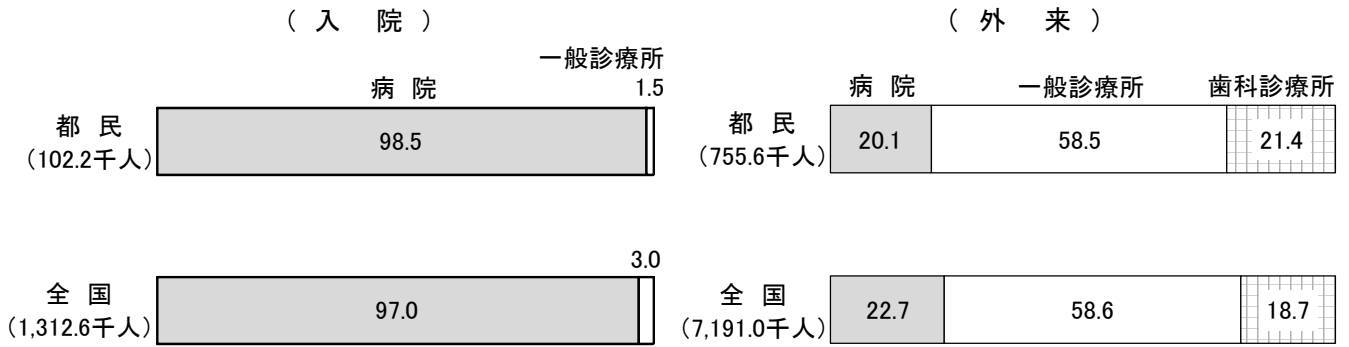
表1 施設の種類の年齢階級別にみた都民の推計患者数

性 年齢階級		入 院			外 来			
		総 数	病 院	一 般 診 療 所	総 数	病 院	一 般 診 療 所	歯 科 診 療 所
総	数	102.2 (101.6)	100.7 (99.8)	1.6 (1.8)	755.6 (760.0)	151.9 (143.3)	441.7 (464.5)	162.0 (152.2)
男		46.6	46.2	0.4	313.7	69.3	182.5	61.9
女		55.7	54.5	1.2	441.9	82.6	259.2	100.1
0	歳	1.3	1.3	-	9.6	1.7	7.8	-
1	～ 4 歳	0.7	0.7	-	33.0	2.9	29.0	1.1
5	～ 9 歳	0.4	0.4	-	25.0	2.0	18.2	4.8
10	～ 14 歳	0.5	0.5	-	16.7	1.6	11.7	3.4
15	～ 19 歳	0.6	0.6	-	10.6	1.6	6.7	2.3
20	～ 24 歳	0.9	0.9	0.0	16.3	2.3	9.3	4.7
25	～ 29 歳	1.3	1.2	0.1	24.7	3.8	12.2	8.7
30	～ 34 歳	1.8	1.7	0.1	26.8	4.9	14.7	7.3
35	～ 39 歳	2.1	2.1	0.0	32.7	6.2	19.6	6.9
40	～ 44 歳	2.6	2.6	0.0	39.1	6.9	22.7	9.5
45	～ 49 歳	3.4	3.4	-	44.3	8.3	21.7	14.3
50	～ 54 歳	4.0	4.0	-	44.1	9.2	23.3	11.6
55	～ 59 歳	4.5	4.4	0.0	40.9	9.4	23.3	8.2
60	～ 64 歳	5.7	5.7	-	44.8	10.9	23.5	10.3
65	～ 69 歳	9.0	8.9	0.2	66.9	16.0	37.0	14.0
70	～ 74 歳	10.5	10.3	0.2	73.5	17.3	38.9	17.3
75	～ 79 歳	12.8	12.6	0.2	77.4	18.7	45.4	13.3
80	～ 84 歳	15.0	14.8	0.2	67.8	16.0	37.7	14.1
85	歳 以上	25.2	24.6	0.6	58.9	12.1	36.5	10.3
不	詳	0.1	0.1	0.0	2.5	0.1	2.4	-
( 再 掲 )								
65	歳 以上	72.5	71.2	1.3	344.6	80.1	195.4	69.0
70	歳 以上	63.4	62.3	1.1	277.6	64.1	158.5	55.0
75	歳 以上	53.0	52.0	1.0	204.1	46.8	119.5	37.8

注1 歯科診療所は外来のみである。

2 ( )は平成26年の数値である。

図1 施設の種類の別みた都民と全国の推計患者数の構成割合



注:( )内は推計患者数である。

(2) 推計患者数の年次推移

年次推移をみると、入院では平成14年から減少傾向にあるが、前回の調査と比較するとほぼ横ばいとなっている。外来では、前回の調査と比較すると「病院」「歯科診療所」は増加、「一般診療所」は減少した。

年齢階級別にみると、入院では「15～34歳」「35～64歳」は減少傾向、「65歳以上」は増加傾向となっており、外来では「35～64歳」「65歳以上」は前回の調査より減少した。

(図2、図3)

図2 施設の種類の別みた都民の推計患者数の年次推移

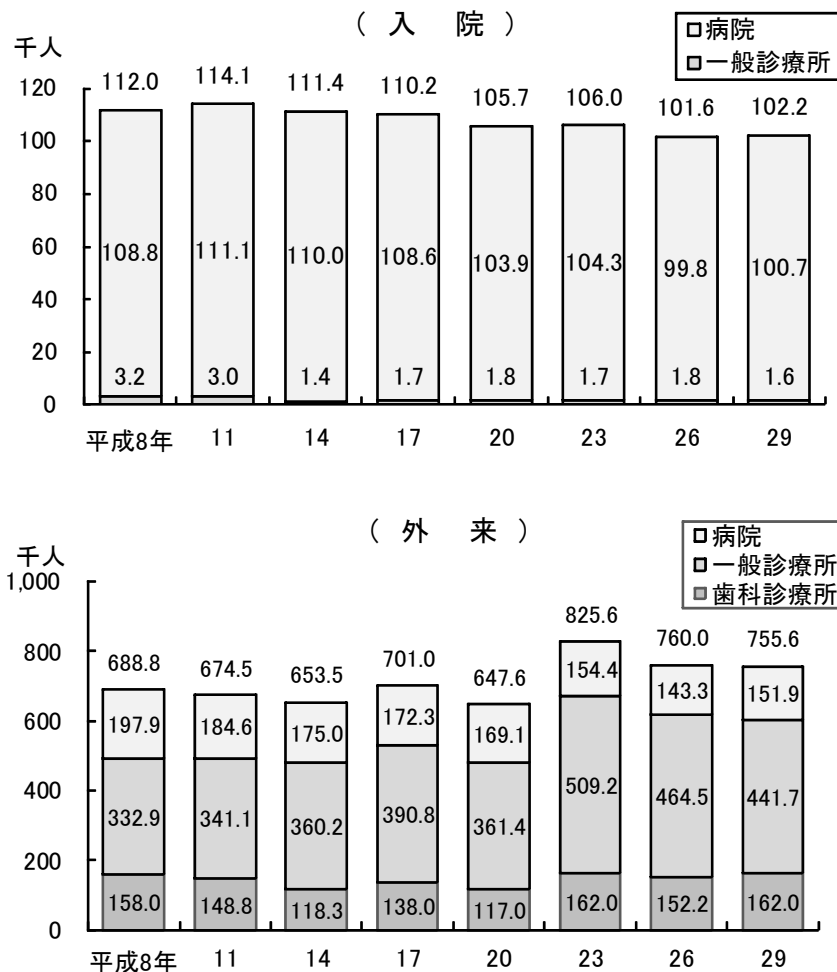
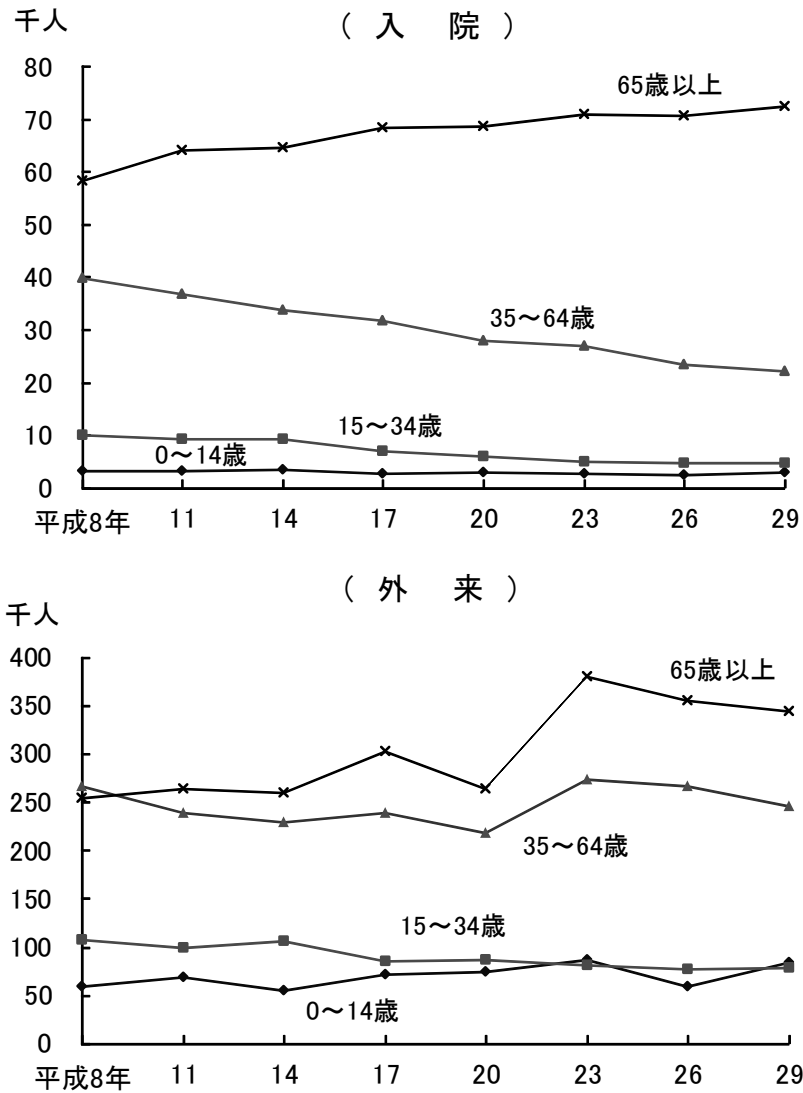


図3 年齢階級別にみた都民の推計患者数の年次推移



### (3) 傷病分類別推計患者数

都民の入院患者を傷病分類別にみると、「IX 循環器系の疾患」17.5千人(入院患者の17.1%)、「V 精神及び行動の障害」17.4千人(同17.1%)、「II 新生物<腫瘍>」12.3千人(同12.1%)の順となっている。

入院患者で最も多い「IX 循環器系の疾患」では「脳血管疾患」が多く、11.7千人(同11.4%)となっている。「V 精神及び行動の障害」では「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」が多く、10.4千人(同10.1%)となっている。

全国と比較すると、都民では「II 新生物<腫瘍>」の割合が高く、「V 精神及び行動の障害」の割合が低くなっている。

都民の外来患者を傷病分類別にみると、「XI 消化器系の疾患」151.8千人(外来患者の20.1%)、「XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患」92.0千人(同12.2%)、「XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」82.4千人(同10.9%)の順となっている。

全国と比較すると、都民では「XI 消化器系の疾患」の割合が高く、「IX 循環器系の疾患」の割合が低くなっている。(表2、図4)



表2 施設の種類・傷病分類別にみた都民の推計患者数

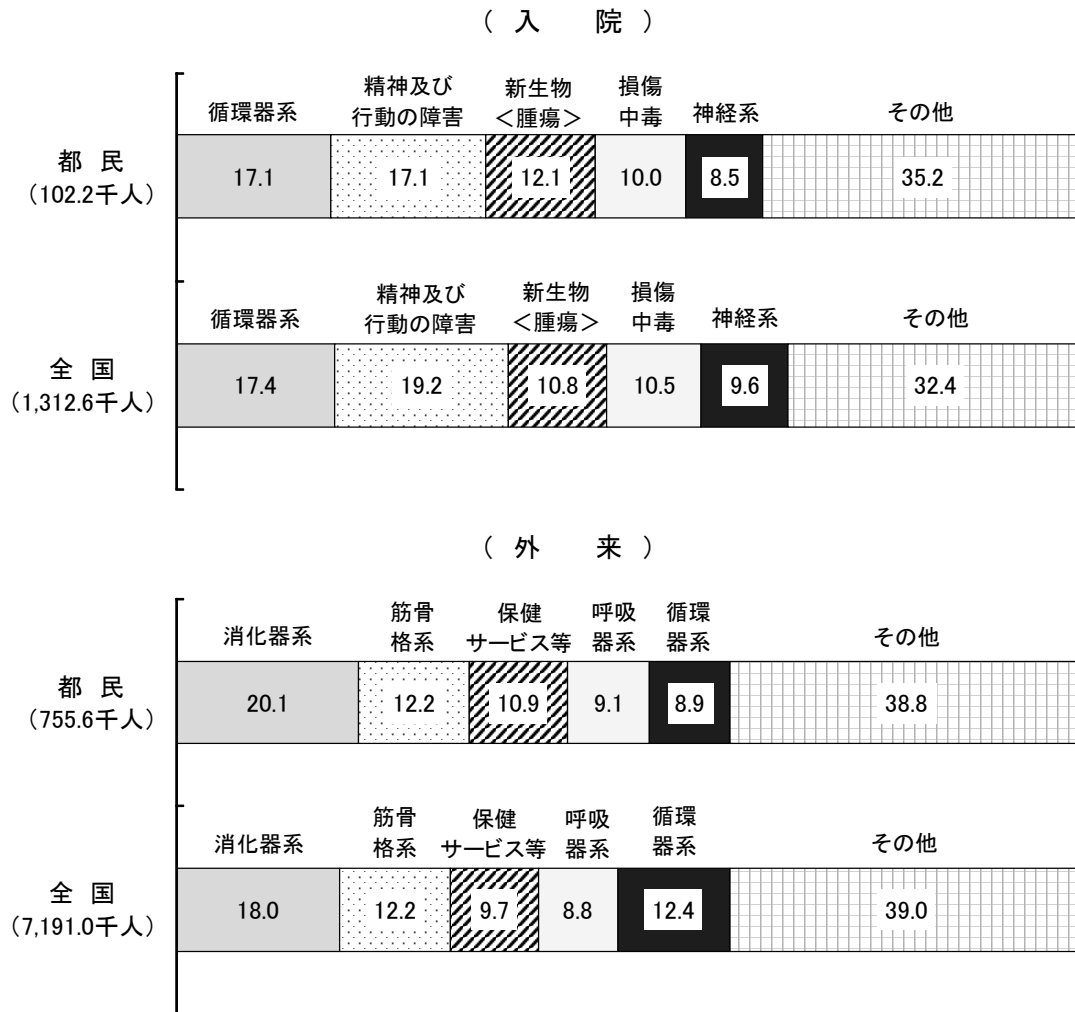
(単位:千人)

平成29年10月

傷病分類	入 院			外 来			
	総数	病院	一般診療所	総数	病院	一般診療所	歯科診療所
総数	102.2	100.7	1.6	755.6	151.9	441.7	162.0
I 感染症及び寄生虫症	2.0	2.0	0.0	19.6	3.3	16.3	-
結核	0.3	0.3	-	0.1	0.1	0.0	-
皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	0.1	0.1	-	8.1	0.6	7.5	-
II 新生物<腫瘍>	12.3	12.3	0.1	26.1	19.6	6.5	-
悪性新生物<腫瘍>	10.9	10.8	0.0	18.2	15.3	2.9	-
胃の悪性新生物<腫瘍>	1.1	1.1	-	1.9	1.4	0.5	-
結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	1.8	1.8	0.0	3.3	2.8	0.5	-
気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	1.4	1.4	-	1.5	1.4	0.1	-
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.5	0.5	0.0	2.5	1.2	1.3	-
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	2.5	2.5	-	37.3	11.1	26.2	-
糖尿病	1.3	1.3	-	18.3	7.0	11.2	-
V 精神及び行動の障害	17.4	17.4	-	23.3	8.0	15.3	-
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	10.4	10.4	-	5.2	2.8	2.4	-
VI 神経系の疾患	8.7	8.7	0.0	16.0	5.4	10.5	-
VII 眼及び付属器の疾患	1.0	1.0	0.0	38.4	5.3	33.1	-
VIII 耳及び乳様突起の疾患	0.2	0.2	-	8.2	1.3	6.9	-
IX 循環器系の疾患	17.5	17.1	0.4	67.3	17.0	50.3	-
高血圧性疾患	0.2	0.2	-	49.6	7.5	42.1	-
心疾患(高血圧性のものを除く)	4.5	4.4	0.1	10.3	5.4	4.9	-
脳血管疾患	11.7	11.4	0.3	5.9	3.0	2.9	-
脳梗塞	7.0	6.8	0.2	3.3	1.7	1.6	-
X 呼吸器系の疾患	7.3	7.1	0.1	68.7	7.5	61.1	-
喘息	0.3	0.3	-	16.0	1.9	14.2	-
X I 消化器系の疾患	6.1	5.9	0.2	151.8	14.2	12.4	125.2
う蝕	0.0	0.0	-	36.2	0.5	-	35.8
歯肉炎及び歯周疾患	0.0	0.0	-	56.2	1.5	-	54.7
その他の歯及び歯の支持組織の障害	0.1	0.1	-	34.5	1.6	-	32.9
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	0.3	0.3	-	2.1	1.0	1.1	-
胃炎及び十二指腸炎	0.0	0.0	-	5.7	1.6	4.1	-
肝疾患	0.6	0.6	-	2.8	1.2	1.7	-
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	0.8	0.8	-	43.6	5.1	38.5	-
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	5.7	5.7	0.0	92.0	18.0	74.0	-
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	4.0	4.0	0.1	37.8	9.6	28.2	-
X V 妊娠、分娩及び産じょく	1.9	1.7	0.2	1.6	0.9	0.7	-
X VI 周産期に発生した病態	0.9	0.9	-	0.2	0.2	-	-
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	0.6	0.6	-	1.5	1.0	0.5	-
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1.2	1.1	0.1	9.6	4.2	5.3	-
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	10.3	9.9	0.4	27.7	7.6	19.0	1.1
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	1.3	1.3	0.0	82.4	11.3	35.4	35.8
歯の補てつ	-	-	-	30.6	1.3	0.0	29.2

注：歯科診療所は外来のみである。

図4 傷病分類別にみた都民と全国の推計患者数の構成割合



注:( )内は推計患者数である。

## 2 都内施設の推計患者数

調査日に都内の医療施設で受療した推計患者数は、「入院」104.0千人、「外来」810.4千人である。

### (1) 施設の種類・性・年齢階級別推計患者数

「入院」104.0千人について施設の種類の別みると、「病院」102.6千人(入院患者の98.6%)、「一般診療所」1.4千人(同1.4%)となっている。全国と比較すると、都内施設の方が病院利用者の割合が高い。

性別にみると、「男」48.1千人(同46.2%)、「女」56.0千人(同53.8%)、年齢階級別にみると、「65歳以上」72.7千人(同69.9%)、「75歳以上」52.4千人(同50.3%)となっている。全国と比較すると、都内施設では「0～14歳」「15～34歳」「35～64歳」の割合が高く、「65歳以上」の割合が低くなっている。

「外来」810.4千人について施設の種別別にみると、「病院」170.2千人(外来患者の21.0%)、「一般診療所」466.9千人(同57.6%)、「歯科診療所」173.3千人(同21.4%)となっている。全国と比較すると、都内施設の方が病院利用者の割合が低い。

性別にみると、「男」341.4千人(同42.1%)、「女」469.0千人(同57.9%)、年齢階級別にみると、「65歳以上」361.3千人(同44.6%)、「75歳以上」212.0千人(同26.2%)となっている。全国と比較すると、都内施設では「0～14歳」「15～34歳」「35～64歳」の割合が高く、「65歳以上」の割合が低くなっている。(表3、図5、図6)

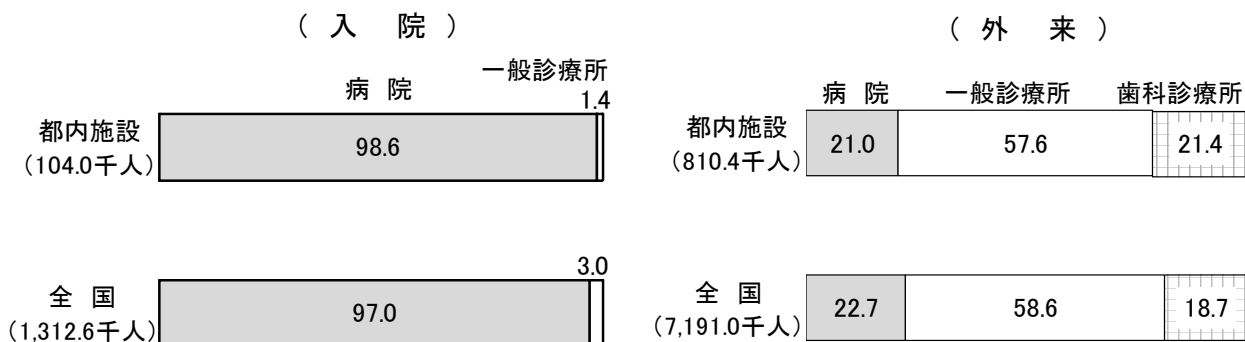
表3 施設の種別・年齢階級別にみた都内施設の推計患者数

(単位:千人) 平成29年10月

性 年齢階級	入 院			外 来			
	総 数	病 院	一 般 診 療 所	総 数	病 院	一 般 診 療 所	歯 科 診 療 所
総 数	104.0 (101.9)	102.6 (100.4)	1.4 (1.5)	810.4 (841.3)	170.2 (165.6)	466.9 (511.3)	173.3 (164.4)
男	48.1	47.7	0.4	341.4	79.1	196.7	65.6
女	56.0	54.9	1.1	469.0	91.1	270.2	107.7
0 歳	1.4	1.4	-	9.7	1.8	8.0	-
1 ～ 4 歳	0.8	0.8	-	33.7	3.1	29.5	1.1
5 ～ 9 歳	0.5	0.5	-	25.8	2.1	18.7	5.0
10 ～ 14 歳	0.5	0.5	-	17.1	1.7	11.8	3.6
15 ～ 19 歳	0.7	0.7	-	11.2	1.8	7.3	2.1
20 ～ 24 歳	1.0	1.0	-	18.1	2.7	10.4	5.0
25 ～ 29 歳	1.3	1.2	0.0	26.8	4.1	13.4	9.3
30 ～ 34 歳	1.8	1.8	-	29.7	5.6	16.2	7.8
35 ～ 39 歳	2.1	2.1	-	35.7	7.0	21.6	7.1
40 ～ 44 歳	2.8	2.8	0.0	42.3	8.0	25.1	9.3
45 ～ 49 歳	3.6	3.6	-	49.2	9.8	23.7	15.7
50 ～ 54 歳	4.2	4.2	-	49.5	10.6	26.1	12.8
55 ～ 59 歳	4.7	4.7	0.0	46.8	11.0	25.4	10.3
60 ～ 64 歳	5.9	5.9	-	50.4	12.9	26.4	11.1
65 ～ 69 歳	9.5	9.4	0.1	71.9	18.6	38.7	14.6
70 ～ 74 歳	10.8	10.7	0.2	77.5	19.6	40.4	17.5
75 ～ 79 歳	13.3	13.1	0.2	82.1	20.5	46.6	15.0
80 ～ 84 歳	14.8	14.6	0.2	69.8	16.9	38.3	14.6
85 歳 以上	24.2	23.7	0.6	60.1	12.3	36.3	11.4
不 詳	0.1	0.1	0.0	3.1	0.1	3.0	-
( 再 掲 )							
65 歳 以上	72.7	71.4	1.3	361.3	87.8	200.4	73.1
70 歳 以上	63.2	62.0	1.2	289.5	69.3	161.7	58.5
75 歳 以上	52.4	51.4	1.0	212.0	49.7	121.3	41.0

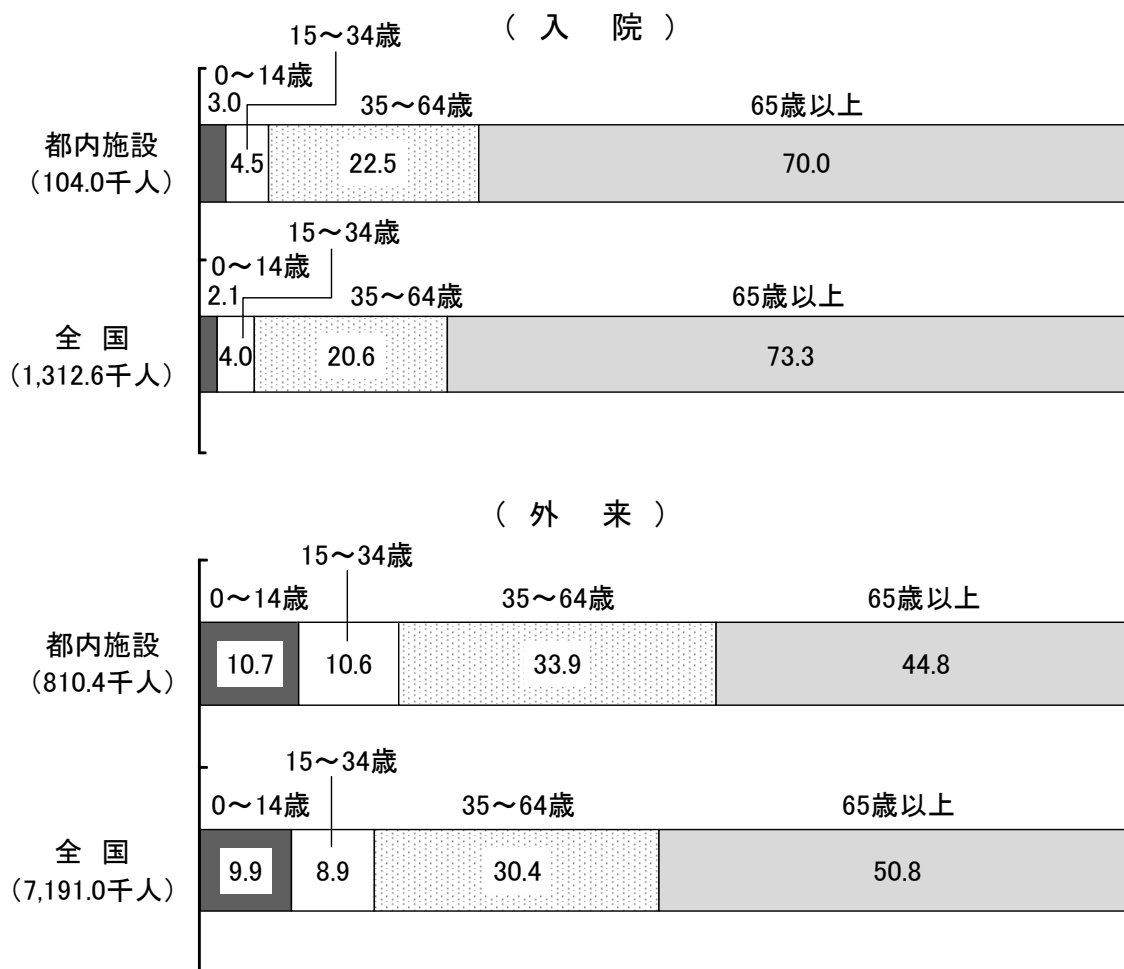
注1 歯科診療所は外来のみである。  
 2 ( )内は平成26年の数値である。

図5 施設の種別別にみた都内施設と全国の推計患者数の構成割合



注:( )内は推計患者数である。

図6 年齢階級別にみた都内施設の推計患者数の構成割合

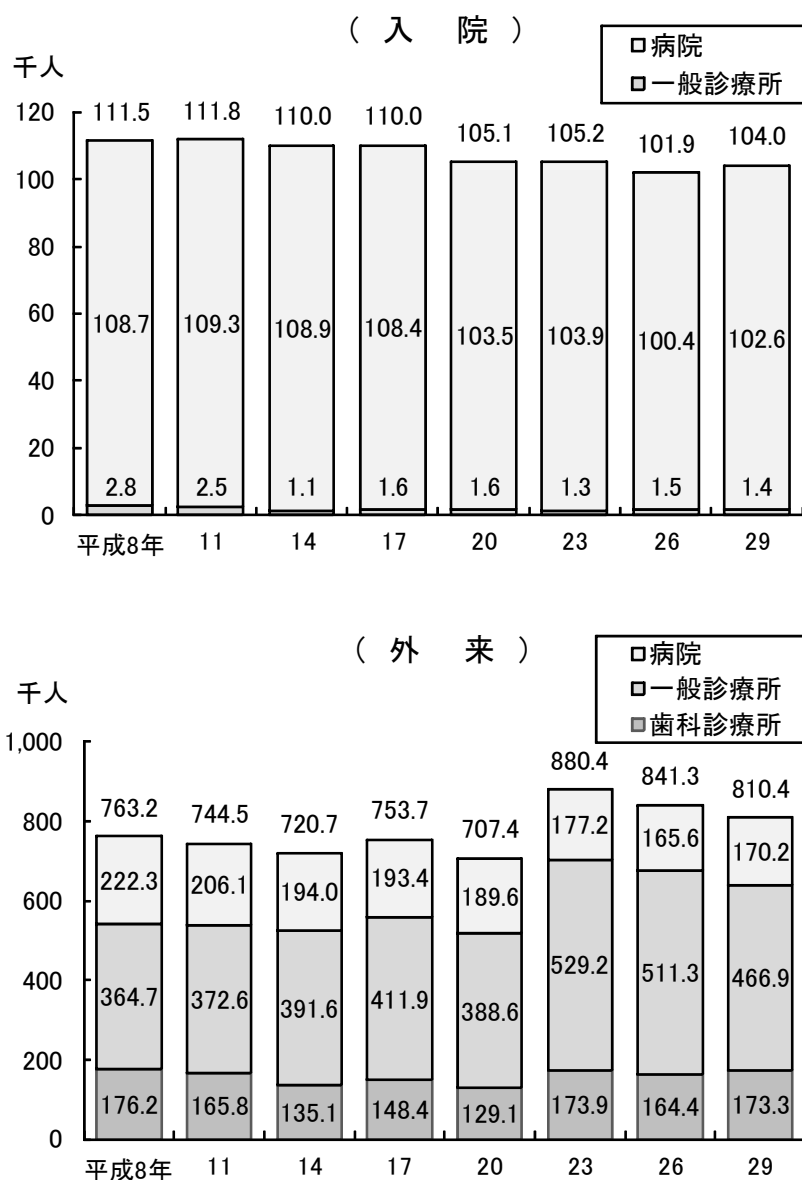


注:( )内は推計患者数である。

## (2) 推計患者数の年次推移

年次推移をみると、入院では平成20年からほぼ横ばいとなっており、外来では平成26年から減少している。(図7)

図7 施設の種別別にみた都内施設の推計患者数の年次推移



### (3) 傷病分類別推計患者数

都内施設の入院患者を傷病分類別にみると、「IX 循環器系の疾患」17.4千人（入院患者の16.8%）、「V 精神及び行動の障害」16.5千人（同15.9%）、「II 新生物<腫瘍>」14.7千人（同14.1%）の順となっている。

入院患者で最も多い「IX 循環器系の疾患」では「脳血管疾患」が多く、11.3千人（同10.9%）となっている。「V 精神及び行動の障害」では「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」が多く、10.0千人（同9.6%）となっている。

全国と比較すると、都内施設では「II 新生物<腫瘍>」の割合が高く、「V 精神及び行動の障害」の割合が低くなっている。

都内施設の外来患者を傷病分類別にみると、「XI 消化器系の疾患」161.7千人（外来患者の20.0%）、「XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患」97.3千人（同12.0%）、「XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」89.8千人（同11.1%）の順となっている。

「X I 消化器系の疾患」では「歯肉炎及び歯周疾患」が多く、59.3千人（同 7.3%）となっている。

全国と比較すると、都内施設では「X I 消化器系の疾患」の割合が高く、「IX 循環器系の疾患」の割合が低くなっている。（表4、図8）

表4 施設の種類・傷病分類別にみた都内施設の推計患者数

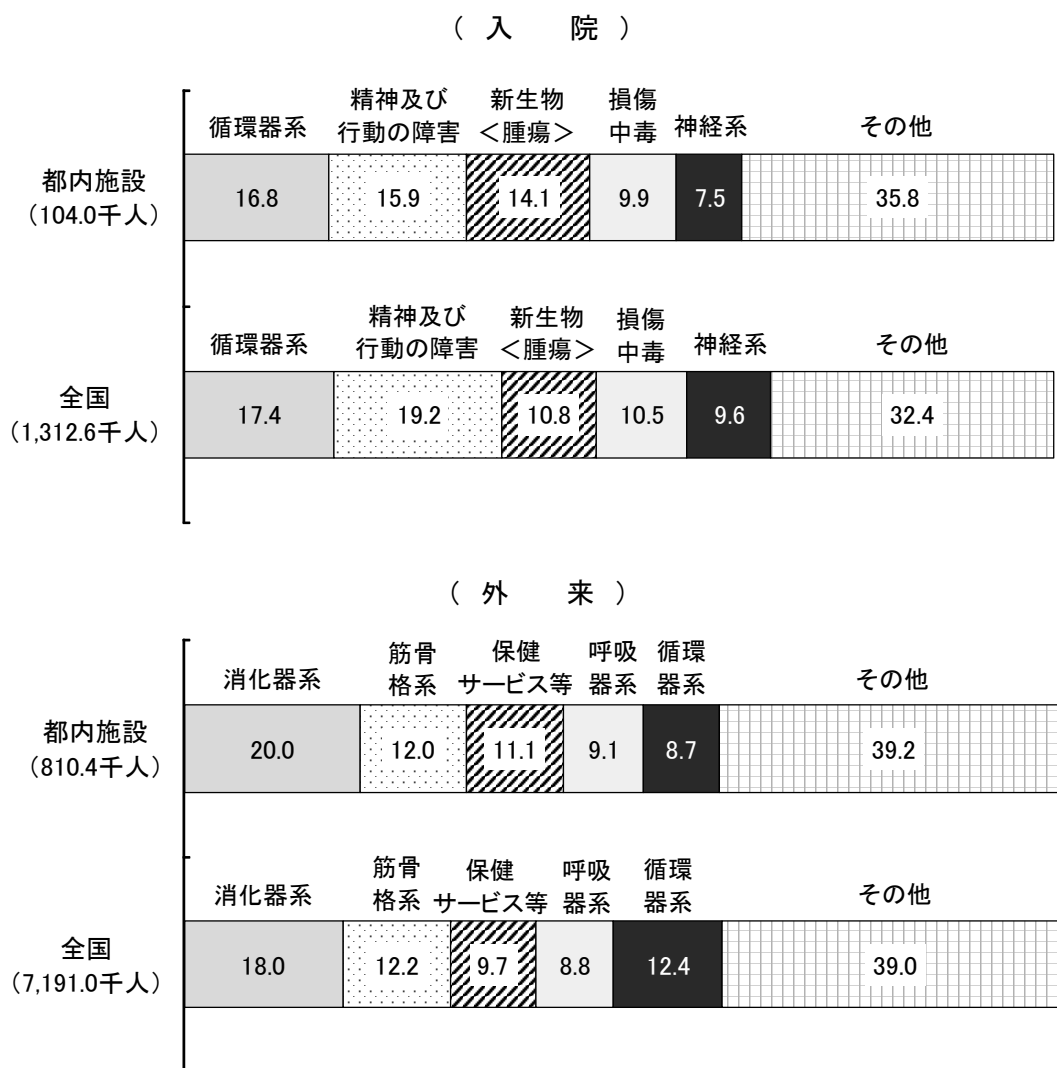
(単位:千人)

平成29年10月

傷病分類	入 院			外 来			
	総 数	病 院	一 般 診 療 所	総 数	病 院	一 般 診 療 所	歯 科 診 療 所
総 数	104.0	102.6	1.4	810.4	170.2	466.9	173.3
I 感染症及び寄生虫症	2.1	2.1	0.0	21.2	3.9	17.3	-
結核	0.3	0.3	-	0.1	0.1	-	-
皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	0.1	0.1	-	8.7	0.7	8.0	-
II 新生物<腫瘍>	14.7	14.6	0.1	30.2	23.7	6.5	-
悪性新生物<腫瘍>	12.8	12.8	0.0	21.4	18.6	2.8	-
胃の悪性新生物<腫瘍>	1.3	1.3	-	2.1	1.6	0.4	-
結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	2.0	1.9	0.0	3.7	3.2	0.6	-
気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	1.6	1.6	-	1.8	1.6	0.1	-
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.5	0.5	0.0	2.7	1.4	1.3	-
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	2.7	2.7	-	39.4	12.3	27.1	-
糖尿病	1.4	1.4	-	19.6	7.9	11.8	-
V 精神及び行動の障害	16.5	16.5	-	25.4	9.2	16.2	-
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	10.0	10.0	-	5.6	3.2	2.4	-
VI 神経系の疾患	7.8	7.7	0.0	16.9	6.0	10.8	-
VII 眼及び付属器の疾患	1.2	1.2	-	41.3	6.0	35.3	-
VIII 耳及び乳様突起の疾患	0.2	0.2	-	8.6	1.5	7.1	-
IX 循環器系の疾患	17.4	17.1	0.4	70.3	18.2	52.1	-
高血圧性疾患	0.2	0.2	-	51.7	7.9	43.8	-
心疾患(高血圧性のものを除く)	4.8	4.7	0.1	10.7	5.9	4.8	-
脳血管疾患	11.3	11.1	0.3	6.1	3.1	2.9	-
脳梗塞	6.7	6.5	0.2	3.4	1.8	1.6	-
X 呼吸器系の疾患	7.3	7.1	0.1	73.4	8.1	65.4	-
喘息	0.3	0.3	-	16.9	2.0	14.9	-
X I 消化器系の疾患	6.4	6.2	0.2	161.7	16.3	13.2	132.3
う蝕	0.0	0.0	-	38.8	0.6	-	38.1
歯肉炎及び歯周疾患	0.0	0.0	-	59.3	1.9	-	57.4
その他の歯及び歯の支持組織の障害	0.1	0.1	-	37.1	2.2	-	34.9
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	0.3	0.3	-	2.4	1.0	1.4	-
胃炎及び十二指腸炎	0.0	0.0	-	6.0	1.7	4.3	-
肝疾患	0.7	0.7	-	3.1	1.4	1.7	-
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	0.8	0.8	-	49.9	5.8	44.1	-
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	6.1	6.1	0.0	97.3	20.2	77.1	-
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	4.1	4.0	0.1	39.8	10.4	29.4	-
X V 妊娠、分娩及び産じょく	1.6	1.6	0.0	1.6	0.9	0.6	-
X VI 周産期に発生した病態	0.8	0.8	-	0.2	0.2	-	-
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	0.7	0.7	-	1.8	1.2	0.6	-
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1.2	1.1	0.1	10.3	4.6	5.7	-
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	10.3	10.0	0.4	28.6	7.8	19.7	1.1
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	1.4	1.4	-	89.8	12.4	37.4	39.9
歯の補てつ	-	-	-	34.2	1.7	-	32.4

注：歯科診療所は外来のみである。

図8 傷病分類別にみた都内施設と全国の推計患者数の構成割合



注:( )内は推計患者数である。

### 3 都民の在宅医療の状況

調査日に在宅医療を受けた都民の推計外来患者数は、28.7千人である。

施設の種別別にみると、「病院」1.7千人(在宅医療を受けた外来患者の6.0%)、「一般診療所」16.6千人(同57.9%)、「歯科診療所」10.3千人(同36.1%)となっている。

在宅医療の種別別にみると、「往診」2.7千人(同9.6%)、「訪問診療」19.8千人(同69.1%)、「医師・歯科医師以外の訪問」6.1千人(同21.3%)となっている。

年次推移をみると、平成26年から増加している。(表5、図9)

表5 施設の種類・在宅医療の種類別にみた都民の在宅医療を受けた推計外来患者数

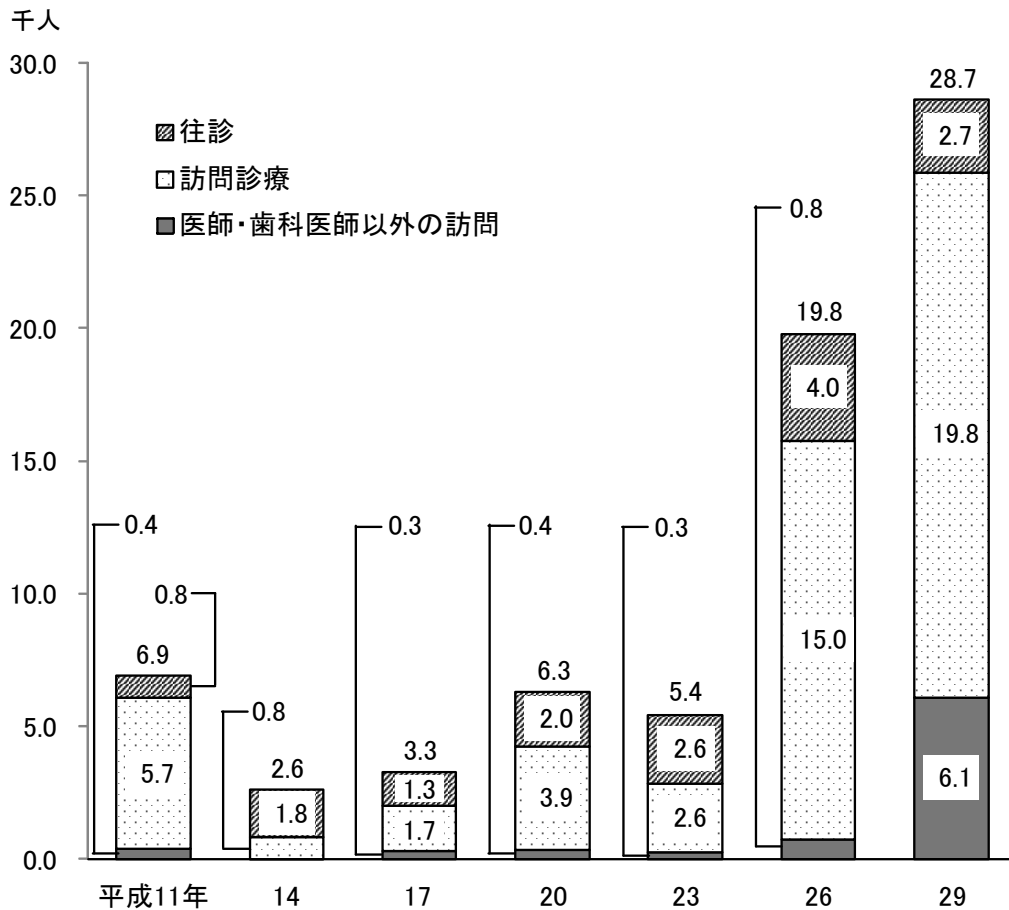
(単位:千人)

平成29年10月

推計外来患者数総	総数				病院				一般診療所			歯科診療所			
	在宅医療	往診	訪問診療	医師・歯科医師以外の訪問	在宅医療	往診	訪問診療	医師・歯科医師以外の訪問	在宅医療	往診	訪問診療	医師以外の訪問	在宅医療	訪問診療	歯科医師以外の訪問
755.6	28.7	2.7	19.8	6.1	1.7	0.3	1.4	0.1	16.6	2.4	14.2	-	10.3	4.3	6.1

- 注1 「往診」とは、患家(介護老人保健施設等を含む。以下同じ。)の求めにより必要に応じて患家に赴いて診療するものをいう。  
 2 「訪問診療」とは、医科においては、居宅において療養を行っている患者であって、通院が困難な者に対して、その同意を得て計画的な医学管理の下に、定期的に医師が訪問して診療を行うものをいい、歯科においては、歯科医師が患家に赴いて診療を行うものをいう。  
 3 「医師・歯科医師以外の訪問」、「医師以外の訪問」及び「歯科医師以外の訪問」とは、居宅において療養を行っている患者であって、通院が困難な者に対して、その同意を得て計画的な医学管理の下に、定期的に当該職種以外の者が訪問して実施されるものをいう。

図9 都民の在宅医療を受けた推計外来患者数の年次推移





#### 4 都民の受療率

調査日に受療した都民の受療率（人口10万人に対する推計患者数）は、「入院」744、「外来」5,498である。

##### (1) 性・年齢階級別受療率

「入院」744について性別にみると、「男」688、「女」798、年齢階級別にみると、「5～9歳」で69と最も低く、「85歳以上」で5,366と最も高くなっている。全国と比較すると、「0歳」を除き、全ての年齢階級で全国を下回っている。

「外来」5,498について性別にみると、「男」4,634、「女」6,337、年齢階級別にみると、「15～19歳」で1,921と最も低く、「80～84歳」で13,598と最も高くなっている。全国と比較すると、4歳以下及び80歳以上の年齢階級を除き、全国と同程度となっている。

（表6、図10）

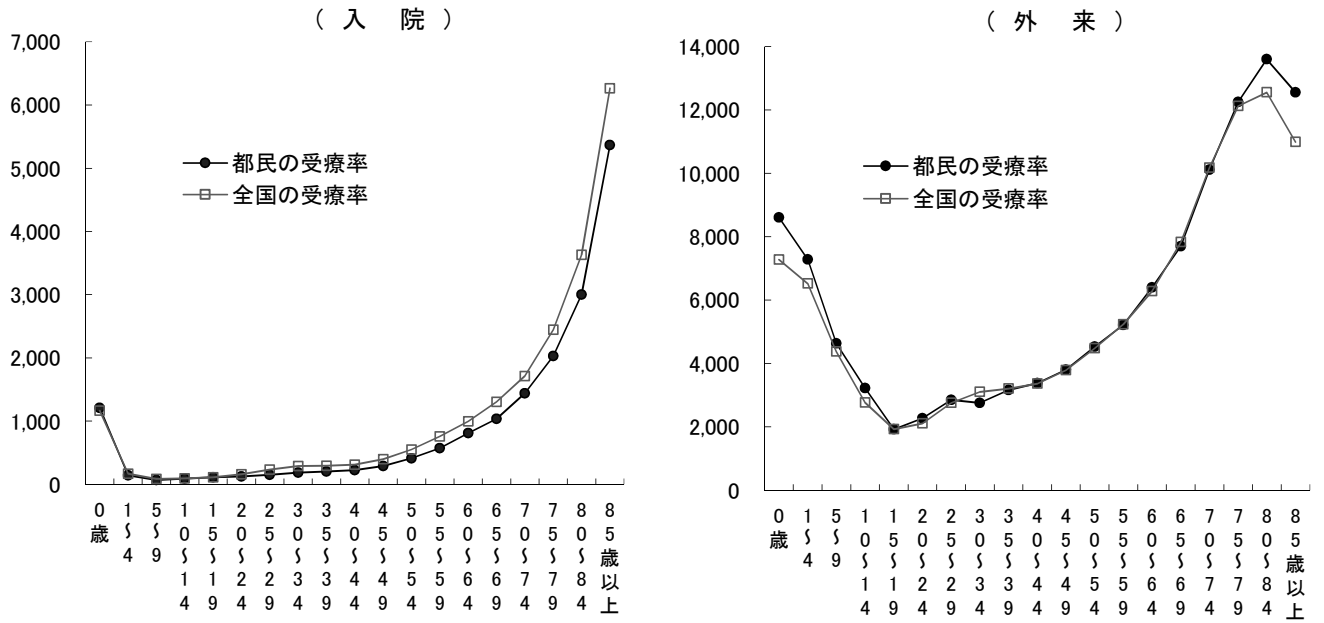
表6 性・年齢階級別にみた都民の受療率（人口10万対）

		平成29年10月					
年齢階級		入 院			外 来		
		総 数	男	女	総 数	男	女
総 数		744 (759)	688 (712)	798 (806)	5,498 (5,680)	4,634 (4,963)	6,337 (6,380)
0 歳		1,208	1,383	1,024	8,608	9,159	8,030
1 ～ 4 歳		144	170	117	7,286	7,170	7,407
5 ～ 9 歳		69	82	55	4,629	4,951	4,291
10 ～ 14 歳		90	95	85	3,221	3,012	3,439
15 ～ 19 歳		111	111	111	1,921	1,844	2,002
20 ～ 24 歳		126	119	133	2,267	1,761	2,773
25 ～ 29 歳		152	101	204	2,846	2,345	3,359
30 ～ 34 歳		184	105	266	2,757	2,129	3,414
35 ～ 39 歳		201	148	258	3,162	2,043	4,340
40 ～ 44 歳		224	216	232	3,380	2,428	4,376
45 ～ 49 歳		291	306	276	3,802	2,823	4,824
50 ～ 54 歳		410	462	355	4,533	4,220	4,870
55 ～ 59 歳		571	636	502	5,210	4,564	5,897
60 ～ 64 歳		810	948	668	6,402	5,330	7,497
65 ～ 69 歳		1,038	1,223	860	7,695	7,048	8,320
70 ～ 74 歳		1,442	1,658	1,255	10,117	9,050	11,040
75 ～ 79 歳		2,028	2,291	1,825	12,251	11,711	12,662
80 ～ 84 歳		3,004	3,171	2,891	13,598	13,170	13,880
85 歳 以上		5,366	5,223	5,428	12,552	11,765	12,900
( 再 掲 )							
65 歳 以上		2,268	2,242	2,287	10,780	9,839	11,497
70 歳 以上		2,727	2,697	2,748	11,934	11,086	12,523
75 歳 以上		3,311	3,262	3,341	12,759	12,193	13,112

注1 総数には年齢不詳を含む。

2 ( )は平成26年の数値である。

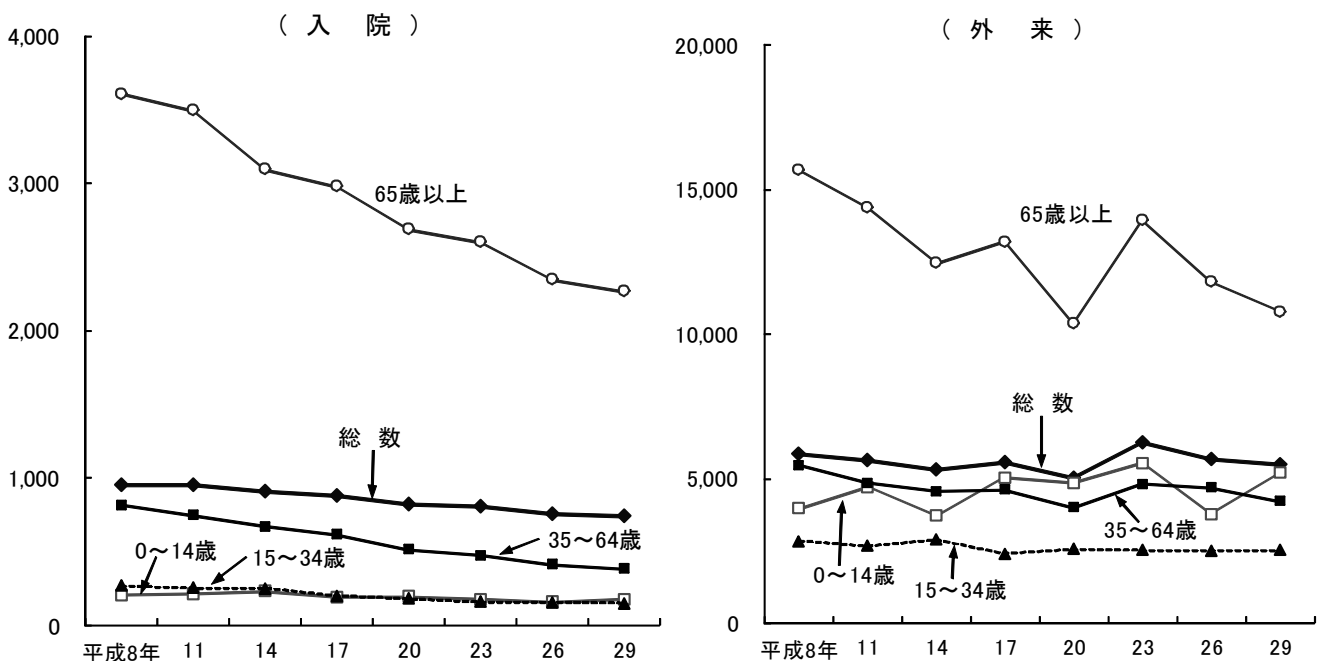
図10 年齢階級別にみた都民と全国の受療率（人口10万対）の比較



(2) 受療率の年次推移

年次推移をみると、入院、外来ともに前回の調査より低下した。年齢階級別にみると、入院、外来ともに「65歳以上」が最も高くなっており、入院では「0～14歳」を除き低下傾向が継続している。外来では、前回の調査と比較すると、「0～14歳」「15～34歳」では上昇し、「35～64歳」「65歳以上」では低下した。（図11）

図11 年齢階級別にみた都民の受療率（人口10万対）の年次推移

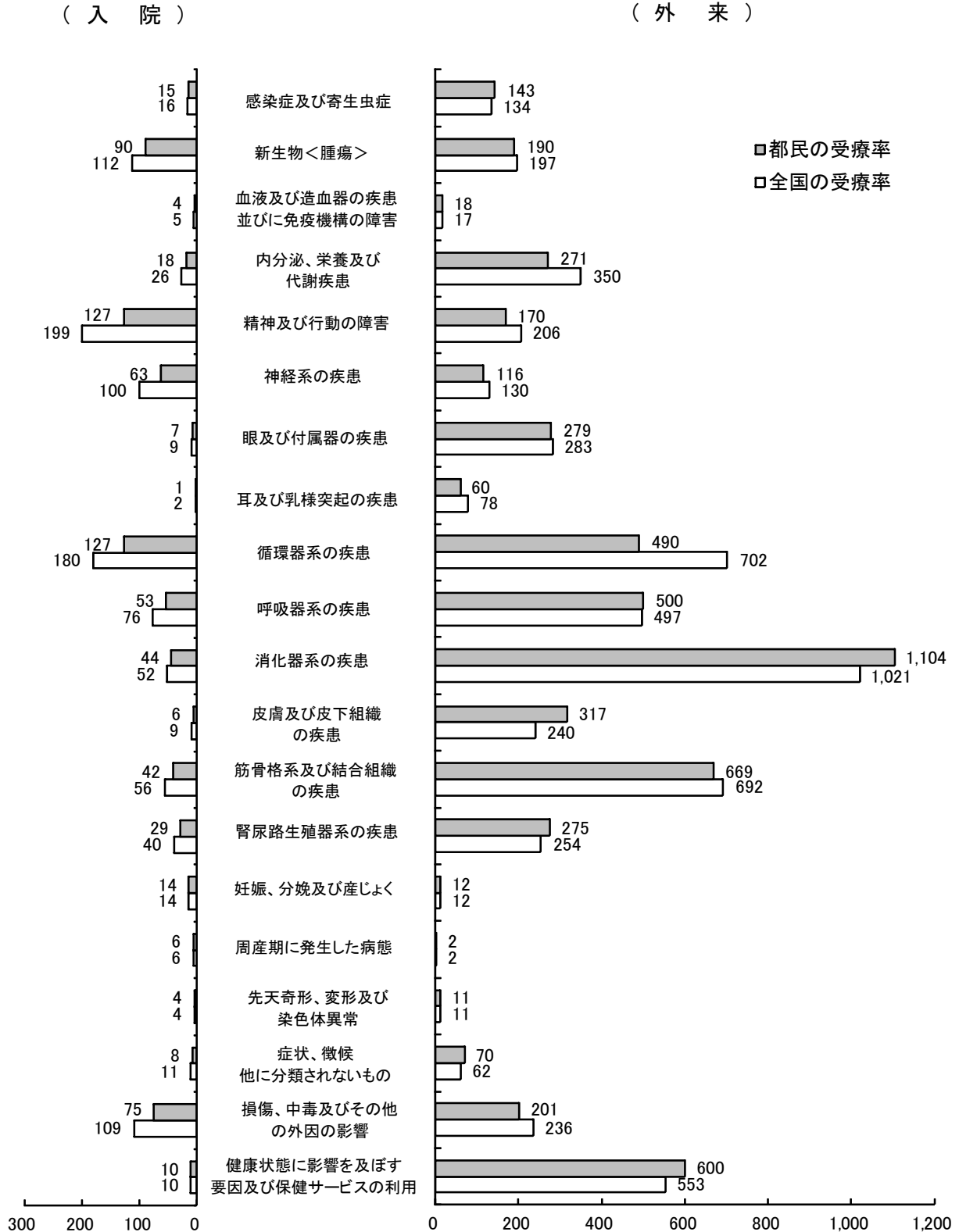


### (3) 傷病分類別受療率

入院について全国と比較すると、全ての傷病で全国と同程度又は下回っている。

外来について全国と比較すると、「消化器系の疾患」「皮膚及び皮下組織の疾患」「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」などで全国を上回っており、「循環器系の疾患」「内分泌、栄養及び代謝疾患」などで全国を下回っている。（図12）

図12 傷病分類別にみた都民と全国の受療率（人口10万対）の比較



### 5 流入－流出患者の受療割合

都民の他県施設受療割合（いわゆる「流出患者」割合）は、「入院」11.8%、「外来」2.4%である。全国と比較すると、入院では全国を上回っているが、外来では全国と同程度である。

都民以外の都内施設受療割合（いわゆる「流入患者」割合）は、「入院」13.4%、「外来」9.0%である。全国と比較すると、入院、外来とも、全国を上回っている。（図13、図14）

図 1 3 都民の都内－都外受療割合

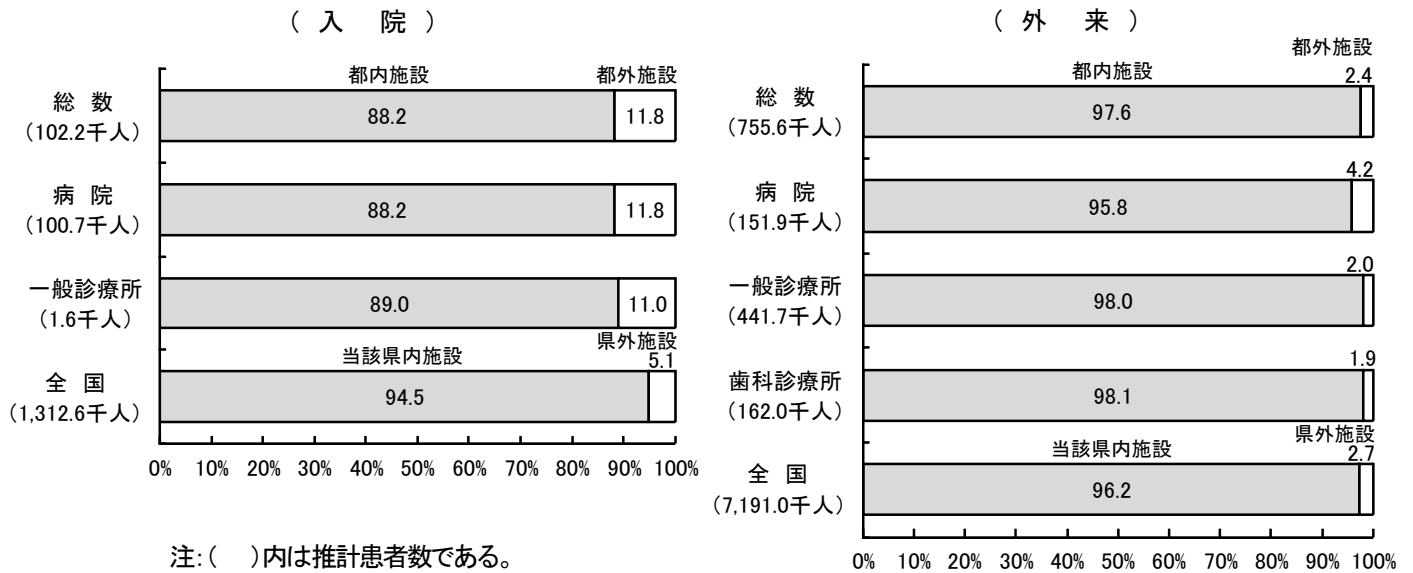
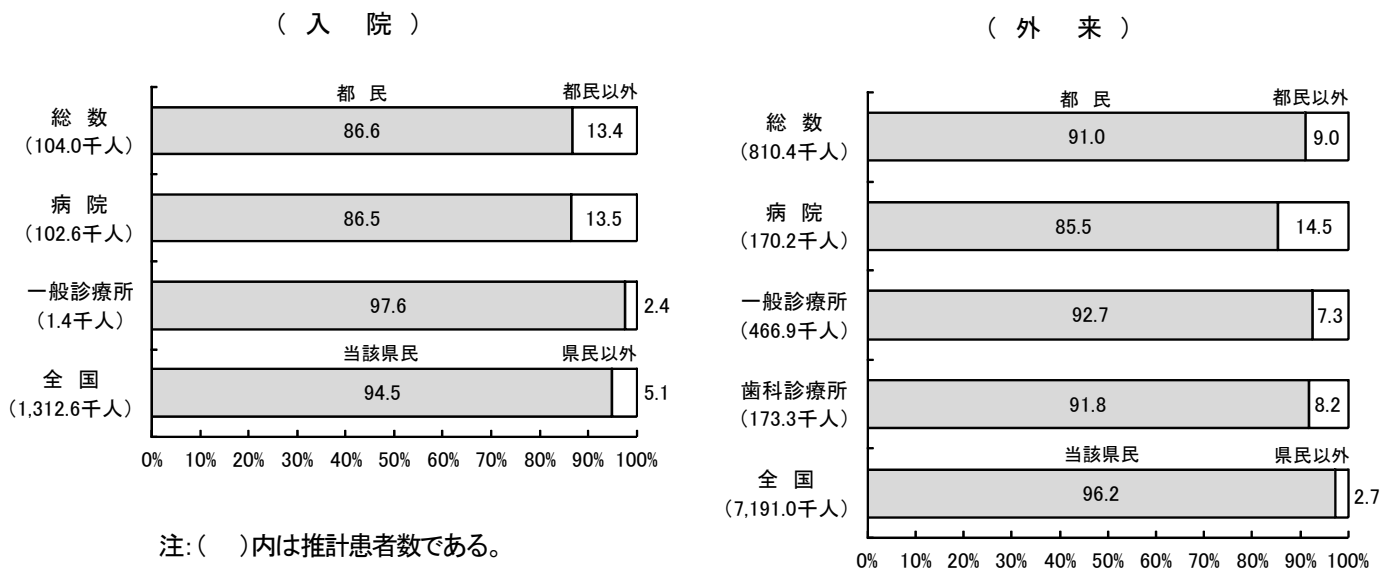


図 1 4 都内施設における都民－都民以外の受療割合



## 6 流入－流出の推計患者数

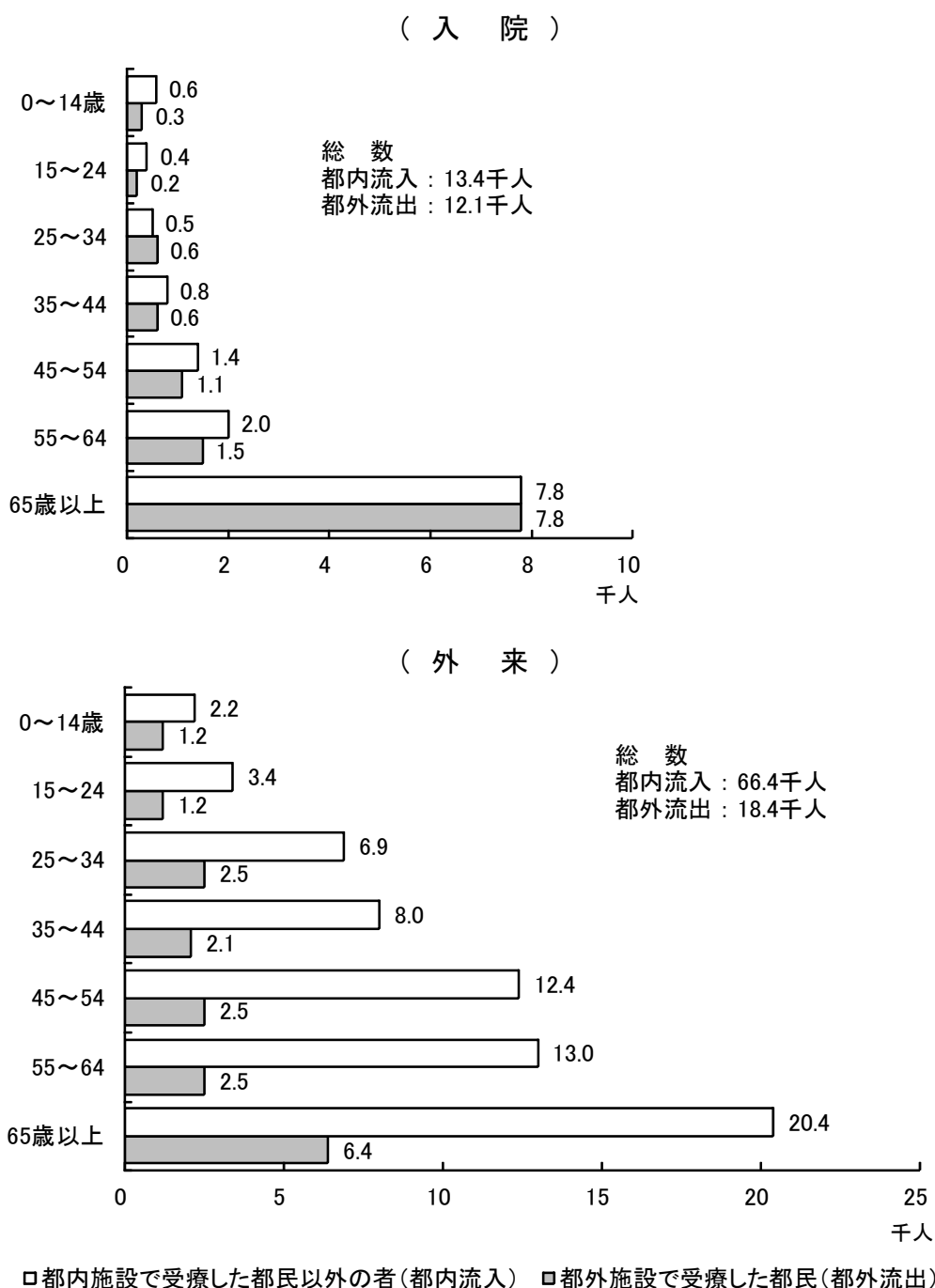
調査日に他県施設で受療した都民の推計患者数は、「入院」12.1千人、「外来」18.4千人、都内施設で受療した都民以外の推計患者数は、「入院」13.9千人、「外来」73.2千人である。

### (1) 年齢階級別流入－流出の推計患者数

年齢階級別にみると、入院では「25～34歳」で流出が流入を上回っており、その他の年齢では、「65歳以上」を除き、流入が流出を上回っている。

外来では、全ての年齢階級で流入が流出を上回っている。（図15）

図15 年齢階級別に見た都内流入－都外流出の推計患者数

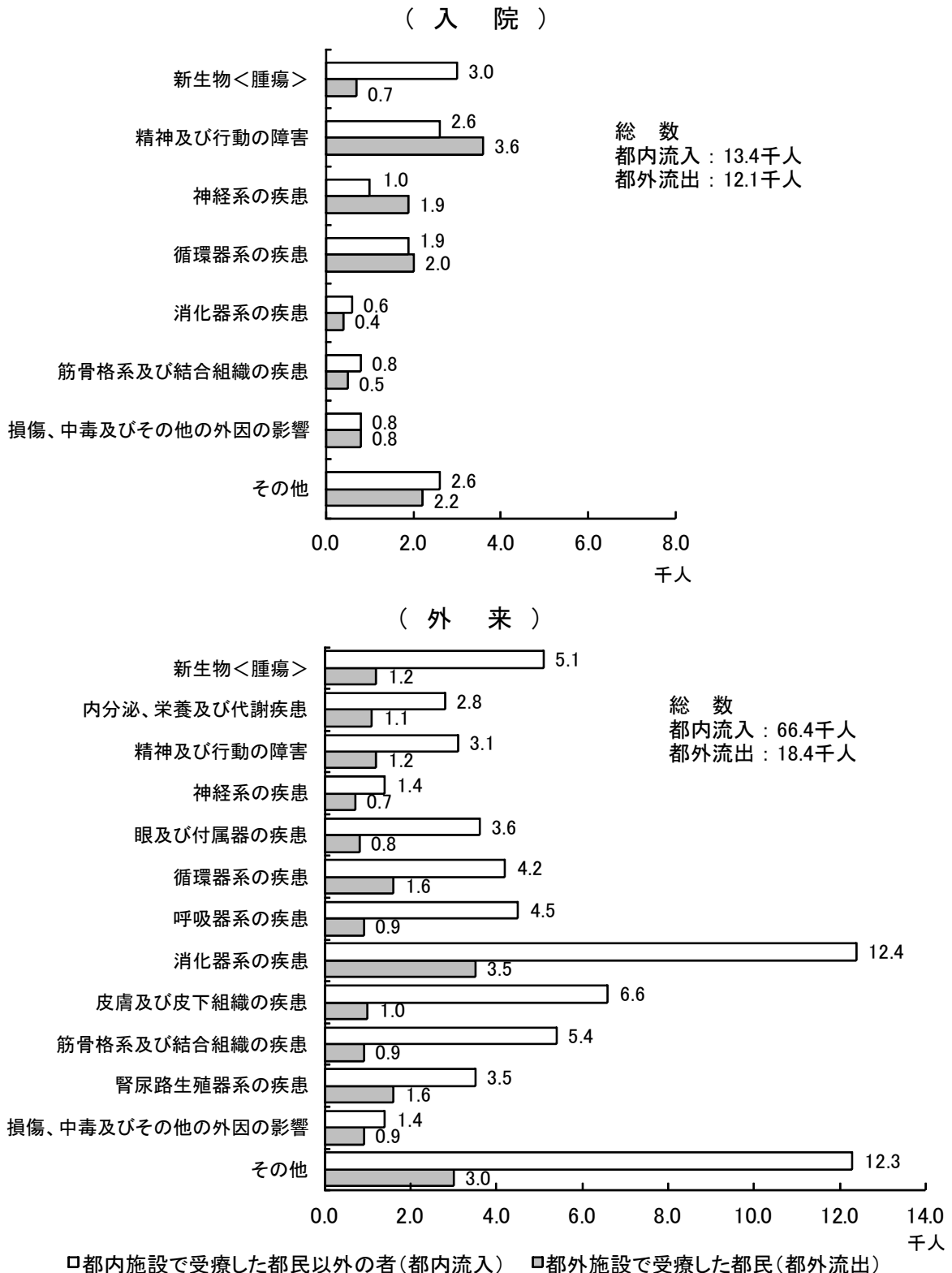


(2) 傷病分類別流入－流出の推計患者数

傷病分類別にみると、入院では「精神及び行動の障害」「神経系の疾患」「循環器系の疾患」で流出が流入を上回っており、その他の傷病では「損傷、中毒及びその他の外因の影響」を除き、流入が流出を上回っている。

外来では、全ての傷病で流入が流出を大きく上回っている。（図 16）

図 16 傷病分類別にみた都内流入－都外流出の推計患者数



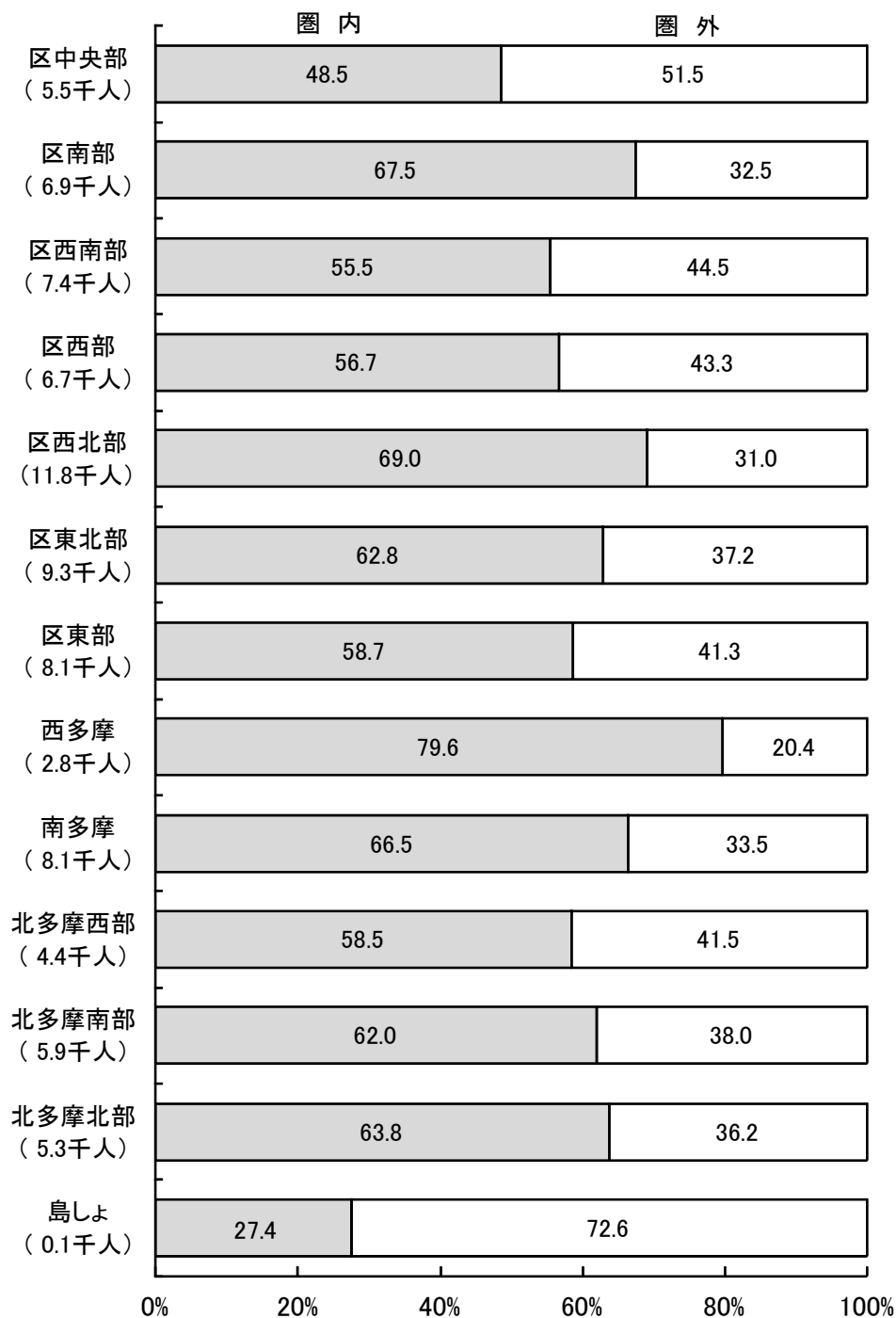
## 7 二次医療圏内の病院の受療割合

二次医療圏ごとの推計患者数のうち、患者が自己の居住地圏内の病院に入院した割合は、「西多摩」79.6%、「区西北部」69.0%、「区南部」67.5%の順となっている。

一方、島しょでは、27.4%となっている。（図17）

図17 二次医療圏別にみた患者の居住地圏内の病院の受療割合

（入院（精神・結核病床を除く））

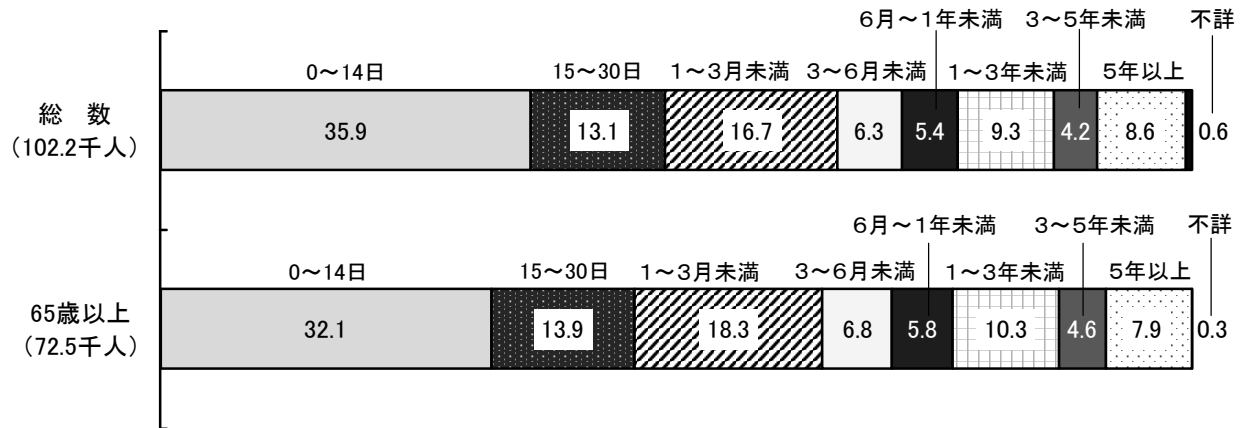


注：（ ）内は、二次医療圏別推計入院患者数(精神・結核を除くその他の病床)である。

## 8 都民患者の入院期間

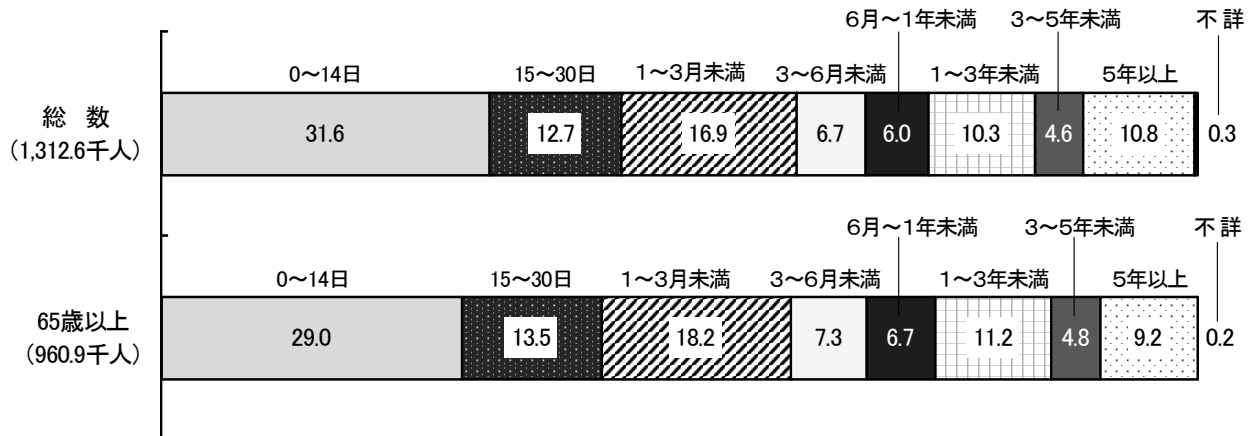
調査日における都民患者の入院期間を構成割合で見ると、「0～14日」35.9%、「1～3か月未満」16.7%、「15～30日」13.1%の順となっており、65歳以上でも、「0～14日」32.1%、「1～3か月未満」18.3%、「15～30日」13.9%の順となっている。全国と比較すると、総数、65歳以上ともに都民患者の方が30日以下の割合が高く、1か月以上の割合は同程度又は低くなっている。（図18、図19）

図18 都民患者の入院期間の構成割合



注:( )内は推計患者数である。

図19 全国患者の入院期間の構成割合



注:( )内は推計患者数である。

## 9 退院患者の平均在院日数・在院期間

調査期間1か月間に医療施設を退院した都民の推計患者数は、135.4千人である。（図20）

### (1) 都民の退院患者の平均在院日数

都民の退院患者の平均在院日数は、24.8日である。性別にみると、「男」22.4日、「女」27.2日、主要な傷病別にみると、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」374.1日、「脳血管疾患」77.0日、「VI 神経系の疾患」66.3日の順となっている。（表7）



表7 傷病分類別にみた都民の退院患者の平均在院日数

(単位:日)

平成29年9月

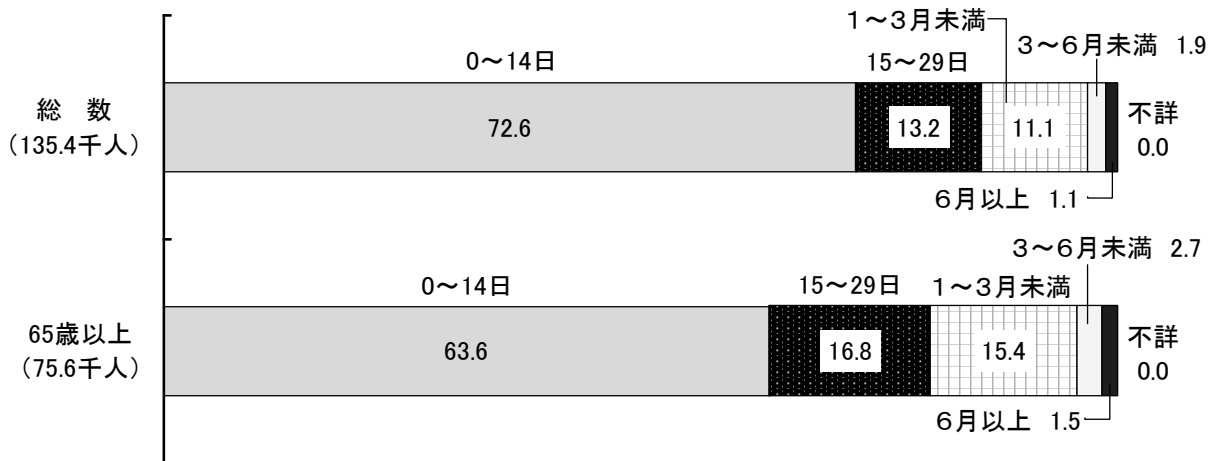
傷病分類	総数	性別		(再掲) 65歳以上
		男	女	
総数	24.8	22.4	27.2	32.7
I 感染症及び寄生虫症	29.7	28.9	30.5	46.4
結核	43.5	46.5	37.5	47.3
皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	8.6	8.3	8.8	9.9
II 新生物<腫瘍>	15.0	16.0	13.8	17.1
悪性新生物<腫瘍>	16.0	16.7	15.1	17.6
胃の悪性新生物<腫瘍>	19.2	16.0	27.1	20.3
結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	12.9	12.9	13.0	13.7
気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	14.5	14.6	14.4	15.4
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	17.7	19.1	16.3	20.8
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	21.5	22.9	19.7	28.2
糖尿病	27.1	28.4	24.6	38.3
V 精神及び行動の障害	235.4	186.7	273.4	444.8
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	374.1	313.7	413.5	821.6
VI 神経系の疾患	66.3	50.2	86.9	103.3
VII 眼及び付属器の疾患	3.2	3.8	2.6	2.9
VIII 耳及び乳様突起の疾患	5.3	5.1	5.5	5.6
IX 循環器系の疾患	35.9	28.9	46.8	38.9
高血圧性疾患	20.3	11.0	30.6	22.3
心疾患(高血圧性のものを除く)	18.2	11.0	30.5	21.2
脳血管疾患	77.0	72.4	82.8	81.3
脳梗塞	73.9	60.6	93.3	79.5
X 呼吸器系の疾患	22.4	21.7	23.3	31.2
喘息	7.6	5.9	9.6	18.2
X I 消化器系の疾患	9.5	9.1	10.2	11.3
う蝕	1.6	1.5	1.7	1.5
歯肉炎及び歯周疾患	2.3	2.9	1.7	2.4
その他の歯及び歯の支持組織の障害	3.6	3.8	3.5	2.5
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	12.8	11.9	14.1	18.0
胃炎及び十二指腸炎	3.4	1.9	5.0	7.4
肝疾患	20.3	22.2	17.8	26.4
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	19.5	18.2	20.8	26.2
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	30.3	28.6	31.7	35.9
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	15.2	15.6	14.8	21.3
X V 妊娠、分娩及び産じょく	7.5	-	7.5	-
X VI 周産期に発生した病態	11.1	11.3	11.0	-
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	14.0	12.9	15.4	31.3
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	16.5	21.2	13.7	21.6
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	25.7	22.7	28.3	34.9
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	10.1	10.6	9.8	17.1
歯の補てつ	1.0	-	1.0	-

注：平成29年9月1日～30日に退院した者を対象とした。

## (2) 都民の退院患者の在院期間

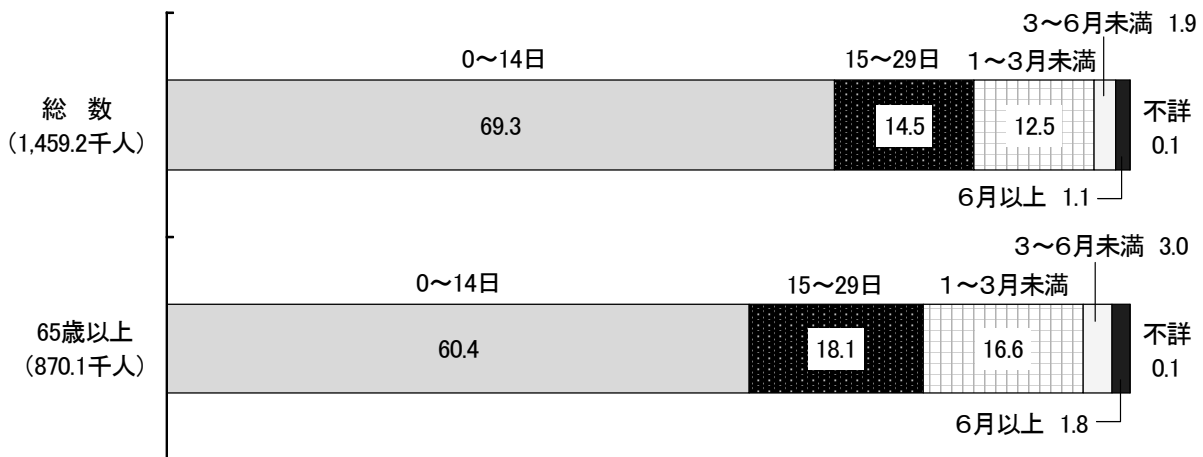
都民の退院患者の在院期間を構成割合で見ると、「0～14日」72.6%、「15～29日」13.2%、「1～3か月未満」11.1%の順となっており、65歳以上でも、「0～14日」63.6%、「15～29日」16.8%、「1～3か月未満」15.4%の順となっている。全国と比較すると、総数、65歳以上ともに都民の退院患者の方が「0～14日」の割合が高く、15日以上の割合が低くなっている。（図20、図21）

図20 都民の退院患者の在院期間の構成割合



注：( )内は推計患者数である。

図21 全国の退院患者の在院期間の構成割合



注：( )内は推計患者数である。